

# 授業外学修時間及び学修行動に関する調査報告

2023年09月

駿河台大学 IR 実施委員会

## 1. 概要

教育の質の向上の一環として、「学生の主体的な学修」の涵養が求められている中で、本学においては、学生委員会が実施する「学生生活基本調査」において、学修時間や学修行動等に関する設問を設けて調査を行い、その結果をホームページ等で学内外に公表しています。

今回の調査では、学生の学修時間や学修行動について、前年度以前の調査と比較したうえで、学生の状況を認識するとともに、教育活動の妥当性を検討するための基礎資料として活用するために、とりまとめました。

## 2. 集計・分析

### (1) 2022年度学生生活基本調査の概要

実施期間：2022年10月10日（月）から11月30日（水）まで

調査対象者：全学部・全学年の学生4,190名

調査方法：全学年ゼミの授業の中で調査依頼。回答は、C-learningシステム上で回答

回答総数：2,119名（回答率50.6%）

参考：2021年度回答率23.4%、2020年度回答率10.7%、2019年度回答率49.1%、2018年度回答率48.9%

学部	1年	2年	3年	4年	計
法	202(86.3%)	184(71.0%)	155(64.6%)	112(43.1%)	653(65.8%)
経済経営	89(35.9%)	143(59.1%)	113(41.9%)	74(28.2%)	419(41.0%)
メディア情報	72(43.4%)	79(49.4%)	73(42.9%)	50(28.2%)	274(40.7%)
スポーツ科学/現代文化	188(76.1%)	121(51.1%)	80(39.8%)	68(34.3%)	457(51.8%)
心理	99(62.3%)	100(72.5%)	75(47.5%)	42(25.6%)	316(51.1%)
計	650(61.7%)	621(60.5%)	496(47.7%)	346(32.6%)	2119(50.6%)

2022年度調査の回答率は50.0%であり、コロナ禍以前の回答率に回復しました。

春学期は、新型コロナウイルス感染症の影響により、可能な限り対面型での授業実施を基本としつつ、受講者が一定数を超える授業や定員を減らした教室の状況により、授業によってはオンライン型やハイブリッド型で実施しましたが、秋学期は、ほぼ全ての授業を対面型で実施いたしました。

また、学部別では、法学部の回答率が65.8%と高く、スポーツ科学/現代文化学部及び心理学部は50%台前半、経済経営及びメディア情報学部は40%台前半でした。

学年別では1.2年次生が60%台前半ですが、4年次生は32.6%と回答率が低くなっています。

## 3. 学修時間に関する結果概要

### (1) 学生生活基本調査における学修時間該当設問

設問12 あなたは、授業以外の学修に週に平均どの位の時間をかけていますか。

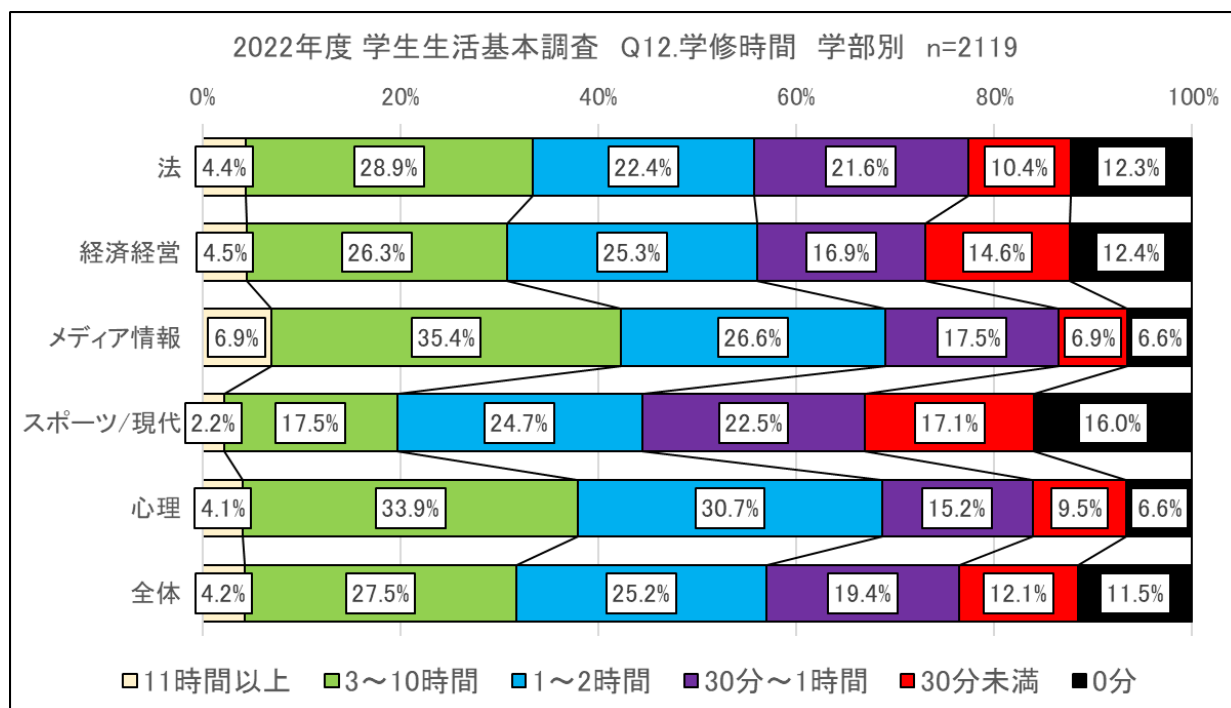
20時間以上	16～20時間	11～15時間	6～10時間	3～5時間
1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	

2020年度に大きく傾向が変わり、コロナ以前3年では、1時間以内が6割程度を占めていたところ、2020年は全学部で全体の23%に低下しましたが、2022年度は43%でコロナ禍以前に戻りつつあります。

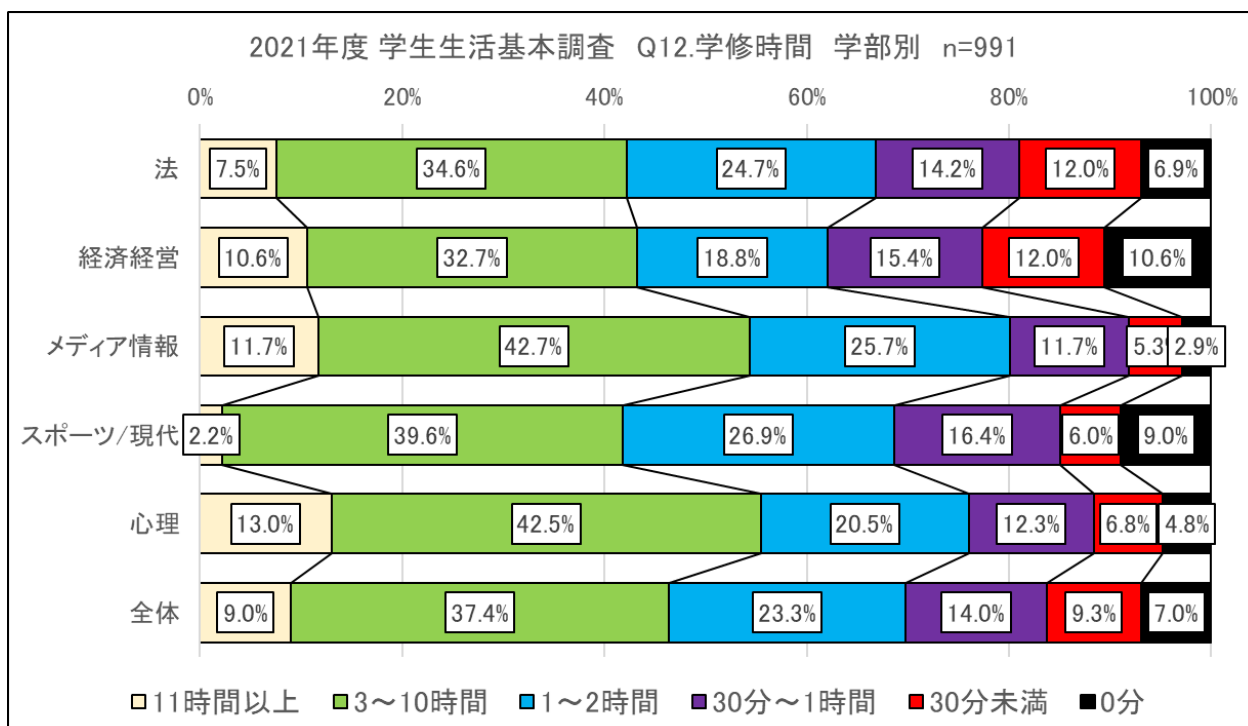
同様に、学修時間が3時間以上の割合は、コロナ以前3年では、2割程度でしたが、2020年度は51%、2021年度46%と割合が高くなり、2022年度は32%でした。

## (2) 学部別集計

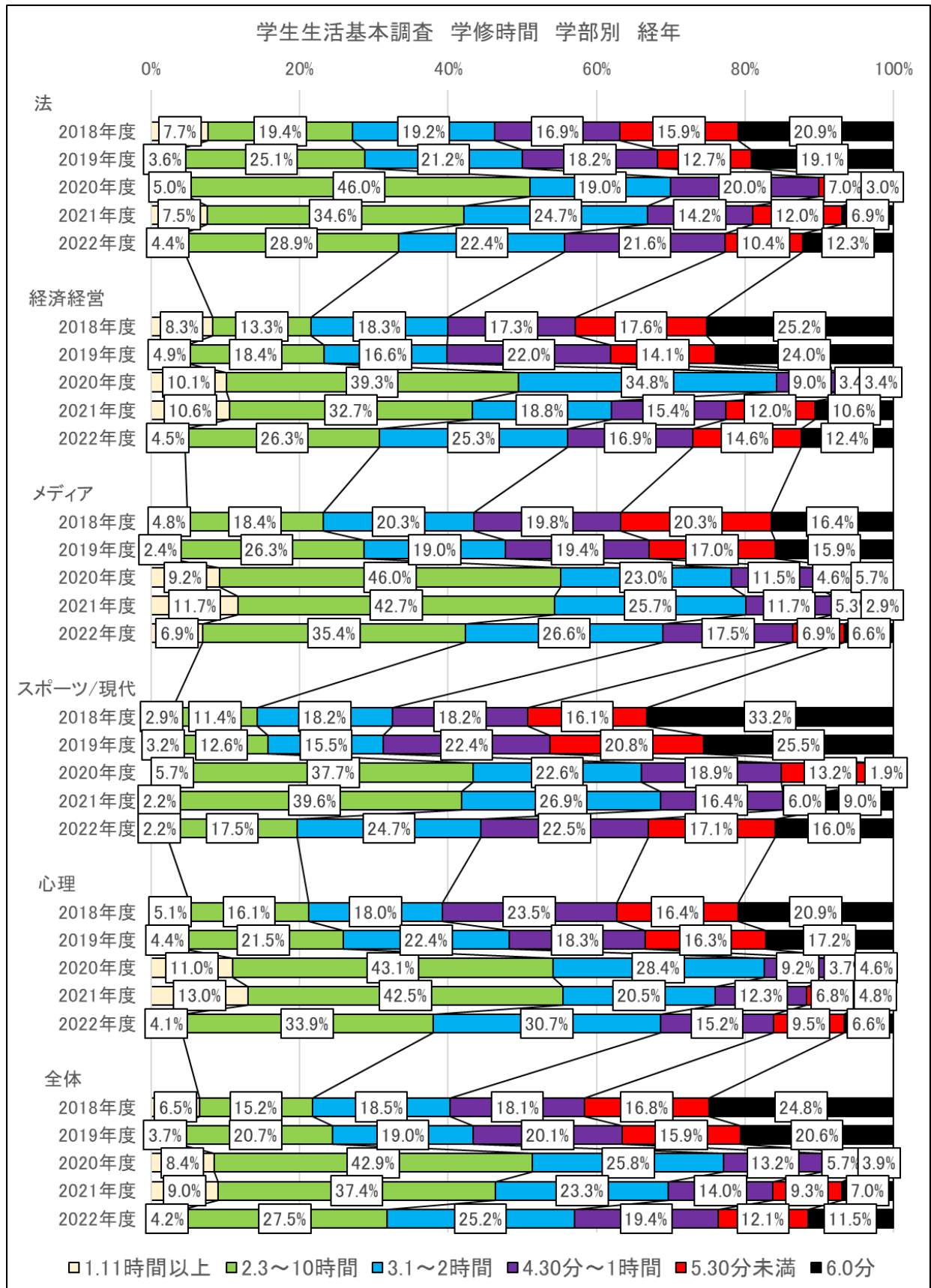
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、スポーツ科学部/現代文化学部が56%と最も高く、メディア情報学部が31%と最も低い結果となりました。一方、学修時間が3時間以上の割合は、メディア情報学部42%が高く、次いで、心理学部が38%、法学部・経済経営学部が30%台前半となり、コロナ禍の2020-21年度よりも、全体の時間数は短くなっています。



参考) 2021年度調査



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較



学部	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
法							
2018年度	31	78	77	68	64	84	402
2019年度	17	117	99	85	59	89	466
2020年度	5	46	19	20	7	3	100
2021年度	25	115	82	47	40	23	332
2022年度	29	189	146	141	68	80	653
経済経営							
2018年度	23	37	51	48	49	70	278
2019年度	19	72	65	86	55	94	391
2020年度	9	35	31	8	3	3	89
2021年度	22	68	39	32	25	22	208
2022年度	19	110	106	71	61	52	419
メディア							
2018年度	10	38	42	41	42	34	207
2019年度	7	76	55	56	49	46	289
2020年度	8	40	20	10	4	5	87
2021年度	20	73	44	20	9	5	171
2022年度	19	97	73	48	19	18	274
スポーツ/現代							
2018年度	8	32	51	51	45	93	280
2019年度	12	48	59	85	79	97	380
2020年度	3	20	12	10	7	1	53
2021年度	3	53	36	22	8	12	134
2022年度	10	80	113	103	78	73	457
心理							
2018年度	16	50	56	73	51	65	311
2019年度	15	74	77	63	56	59	344
2020年度	12	47	31	10	4	5	109
2021年度	19	62	30	18	10	7	146
2022年度	13	107	97	48	30	21	316
全体							
2018年度	112	262	319	312	289	427	1721
2019年度	70	387	355	375	298	385	1870
2020年度	37	188	113	58	25	17	438
2021年度	89	371	231	139	92	69	991
2022年度	90	583	535	411	256	244	2119

## (2) 学年別集計

学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、4年次で45%、3年次で40%、2年次で42%、1年次で46%でした。一方、学修時間が3時間以上の割合は、4年次で29%、3年次で37%、2年次で35%、1年次で27%となり、2.3年生が比較的高くなっています。

秋学期の履修科目数は1.2年次では10科目を超えています。3.4年次生では履修科目数が少なくなり、特に4年次生では必修演習のみの学生がいることも考えると、高学年程、1科目にかける時間の割合は高くなっていること、1年次における学修時間が他の学年に比べて少ないことが挙げられます。

経年では、学部別と同様、いずれの学年についても昨年度より時間数が短くなっています。

### 2022年度秋学期履修科目数

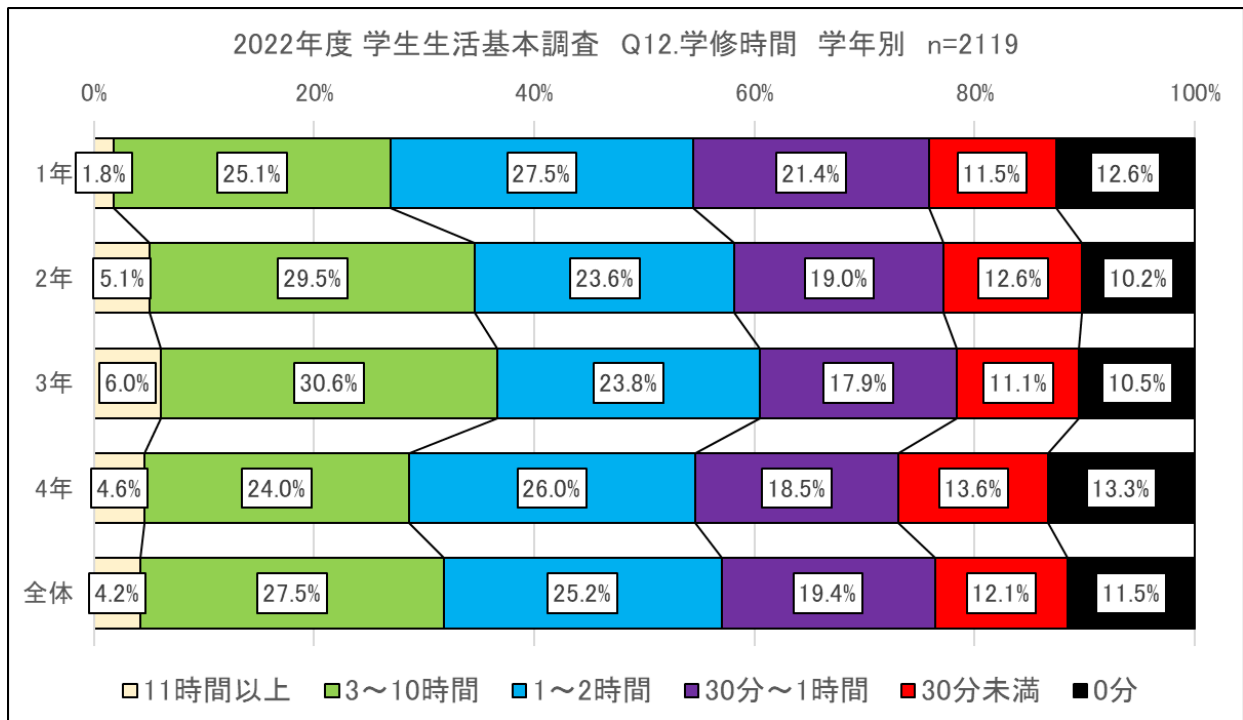
履修科目数	1年	2年	3年	4年	計
01-02科目		1	4	639	644
03-04科目			32	133	165
05-06科目	6	18	161	78	263
07-08科目	33	84	272	44	433
09-10科目	249	327	275	40	891
11-12科目	460	340	164	29	993
13-14科目	131	109	72	10	322
15科目以上	164	148	37		349
計	1043	1027	1017	973	4060

※ 教職課程等卒業要件外科目、単位認定科目も含む

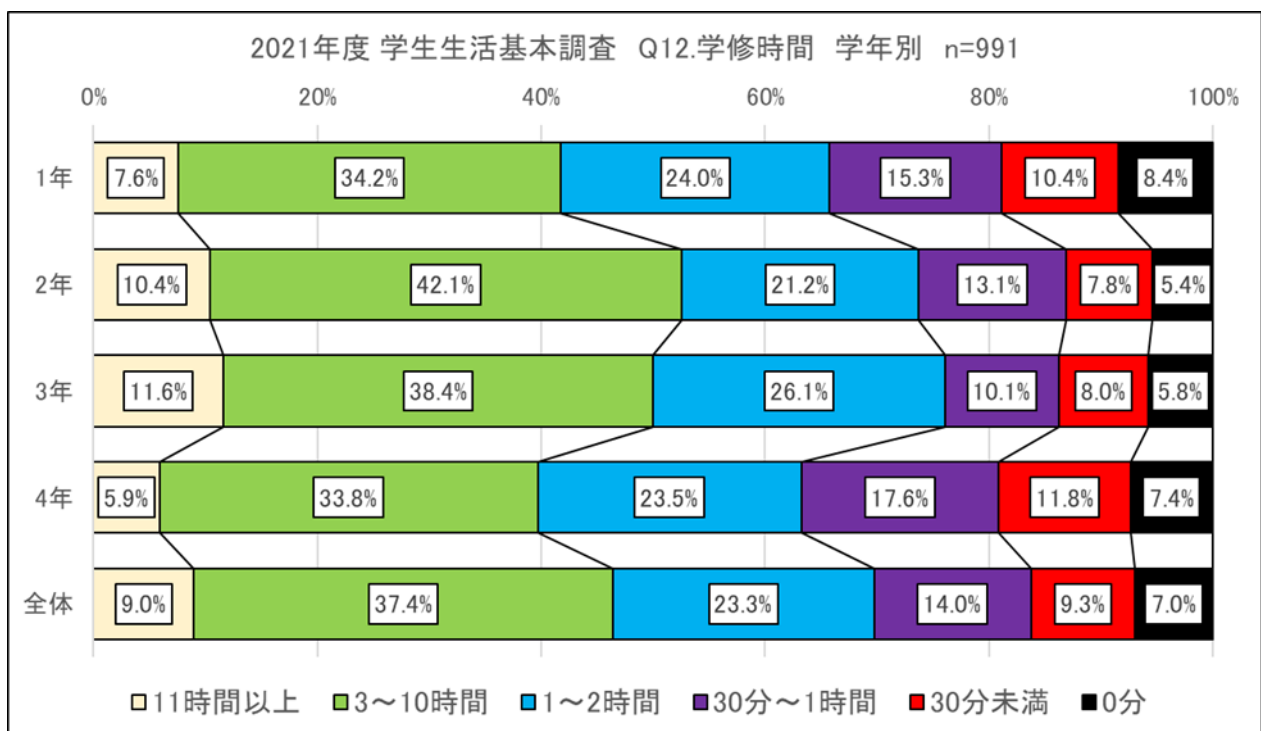
※ 過年度生を除く

### 2022年度秋学期学部学年別平均履修科目数

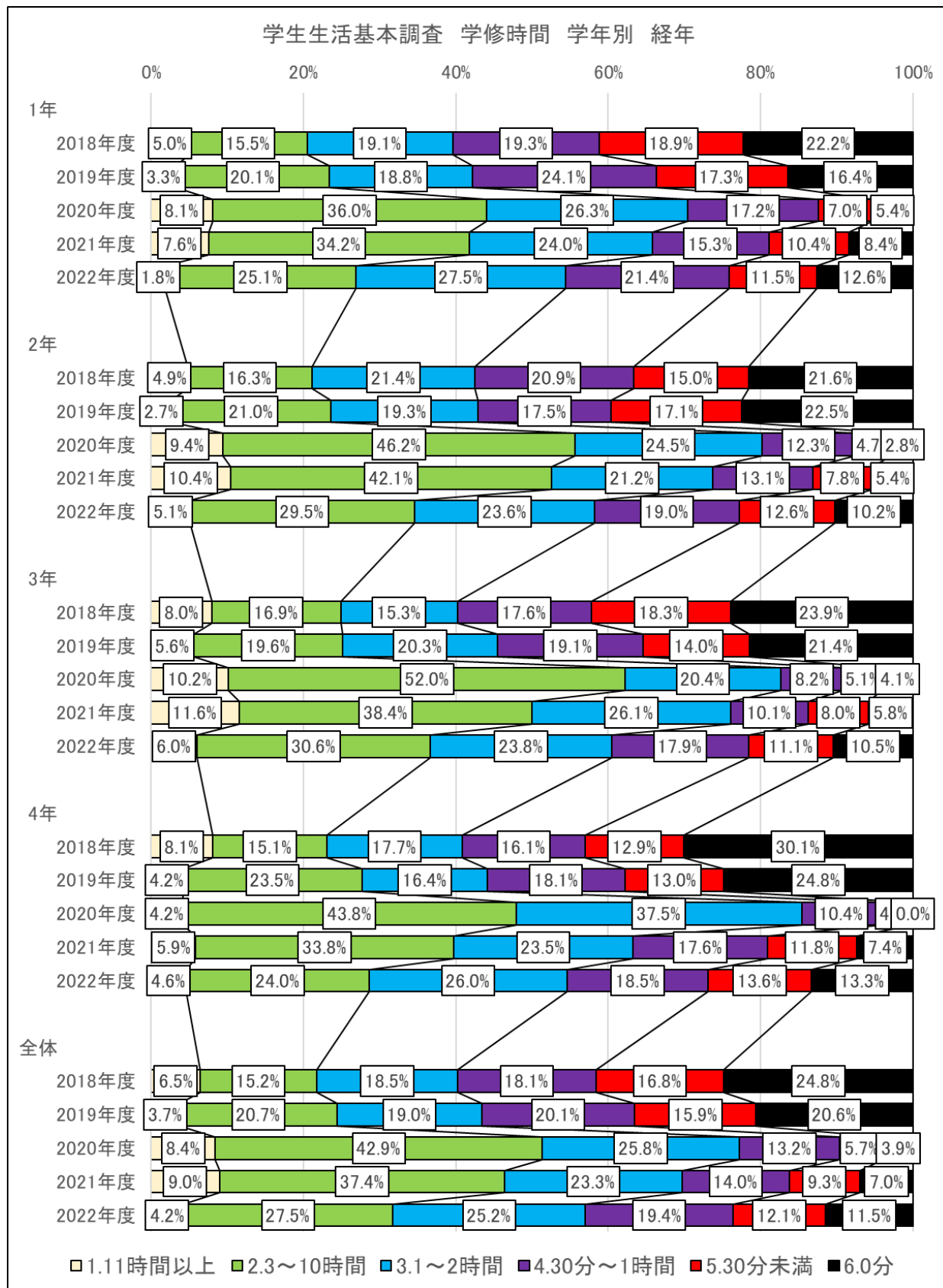
学部	1年	2年	3年	4年	計
法	11.1	10.5	8.2	2.1	8.0
経済経営	10.7	9.6	7.9	2.4	7.7
メディア情報	10.9	10.7	8.1	3.4	8.3
スポーツ科学/現代文化	15.2	15.9	11.8	4.4	12.3
心理	10.3	10.4	9.3	2.5	8.2
計	11.8	11.6	9.0	2.9	8.9



参考) 2021年度調査



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

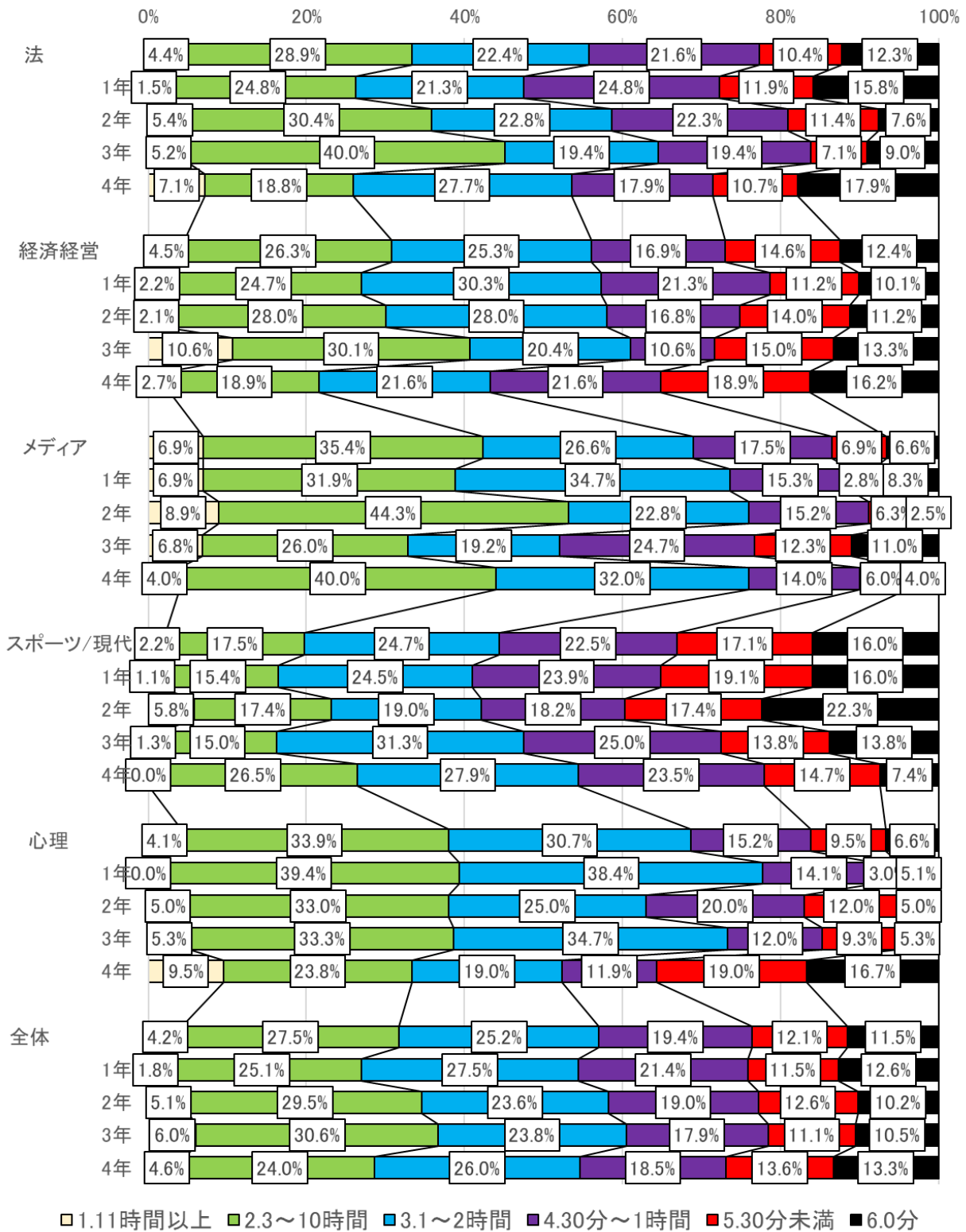


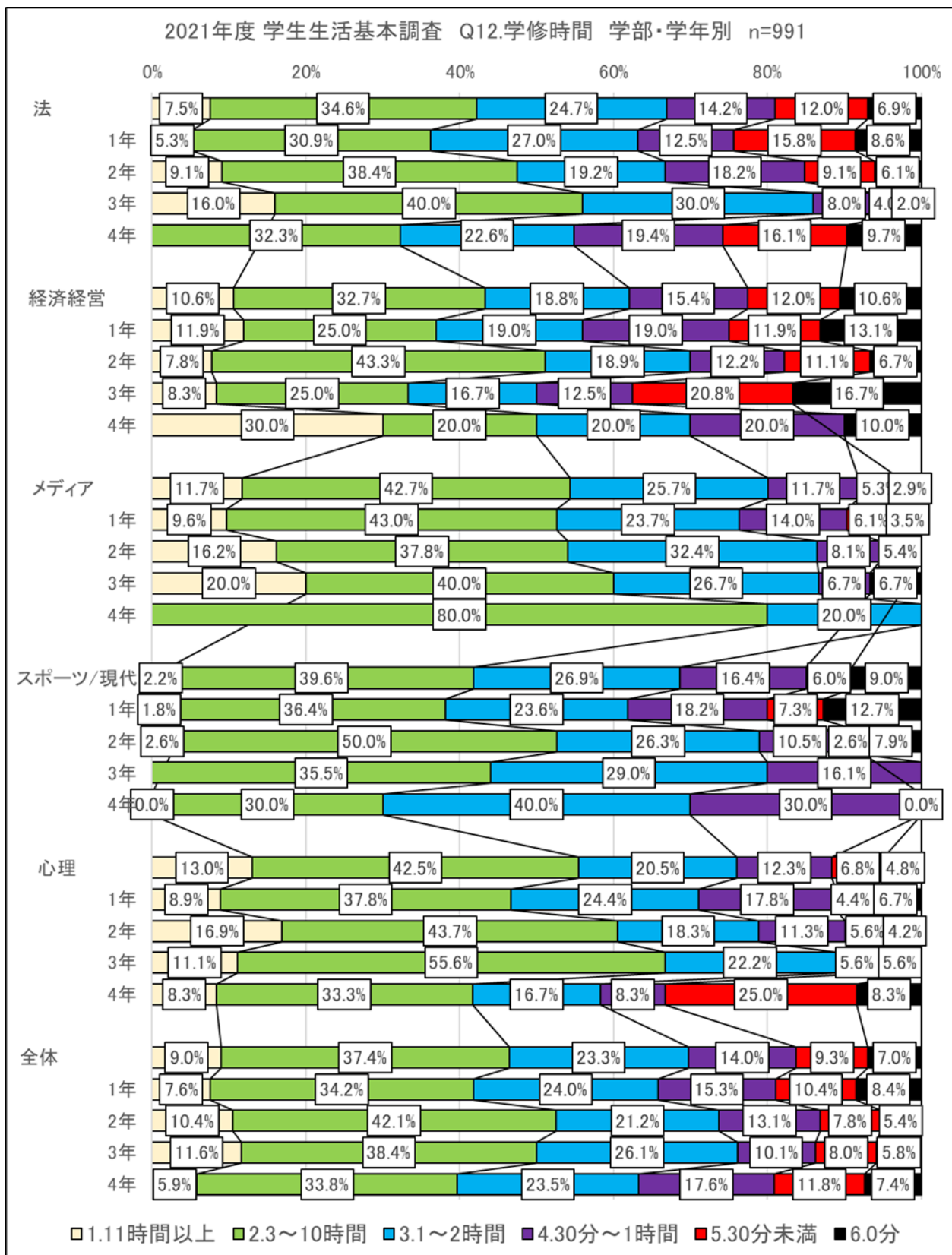
学生生活基本調査 学修時間 学年別 経年

学年	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
1年							
2018年度	29	89	110	111	109	128	576
2019年度	20	121	113	145	104	99	602
2020年度	15	67	49	32	13	10	186
2021年度	34	154	108	69	47	38	450
2022年度	12	163	179	139	75	82	650
2年							
2018年度	20	67	88	86	62	89	412
2019年度	16	126	116	105	103	135	601
2020年度	10	49	26	13	5	3	106
2021年度	35	141	71	44	26	18	335
2022年度	32	185	148	119	79	64	627
3年							
2018年度	24	51	46	53	55	72	301
2019年度	24	84	87	82	60	92	429
2020年度	10	51	20	8	5	4	98
2021年度	16	53	36	14	11	8	138
2022年度	30	152	118	89	55	52	496
4年							
2018年度	15	28	33	30	24	56	186
2019年度	10	56	39	43	31	59	238
2020年度	2	21	18	5	2		48
2021年度	4	23	16	12	8	5	68
2022年度	16	83	90	64	47	46	346
全体							
2018年度	112	262	319	312	289	427	1721
2019年度	70	387	355	375	298	385	1870
2020年度	37	188	113	58	25	17	438
2021年度	89	371	231	139	92	69	991
2022年度	90	583	535	411	256	244	2119



2022年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間 学部・学年別 n=2119



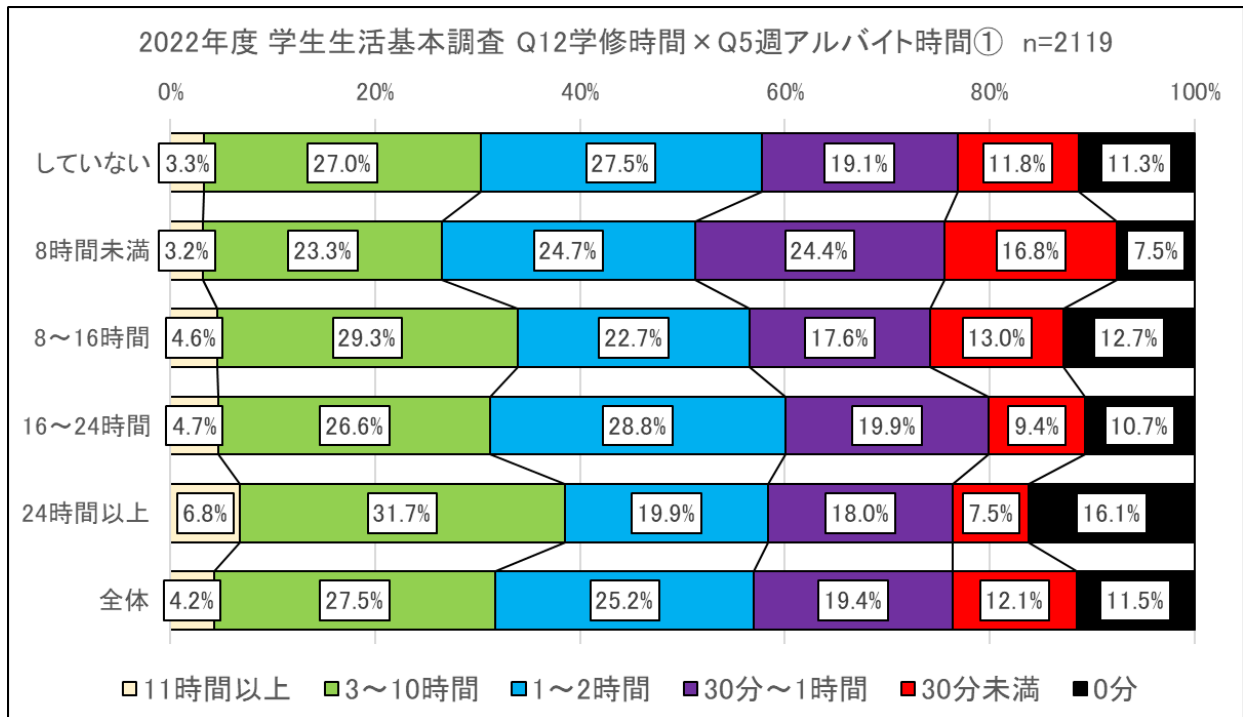


#### (4) 週当たりアルバイト時間とのクロス集計

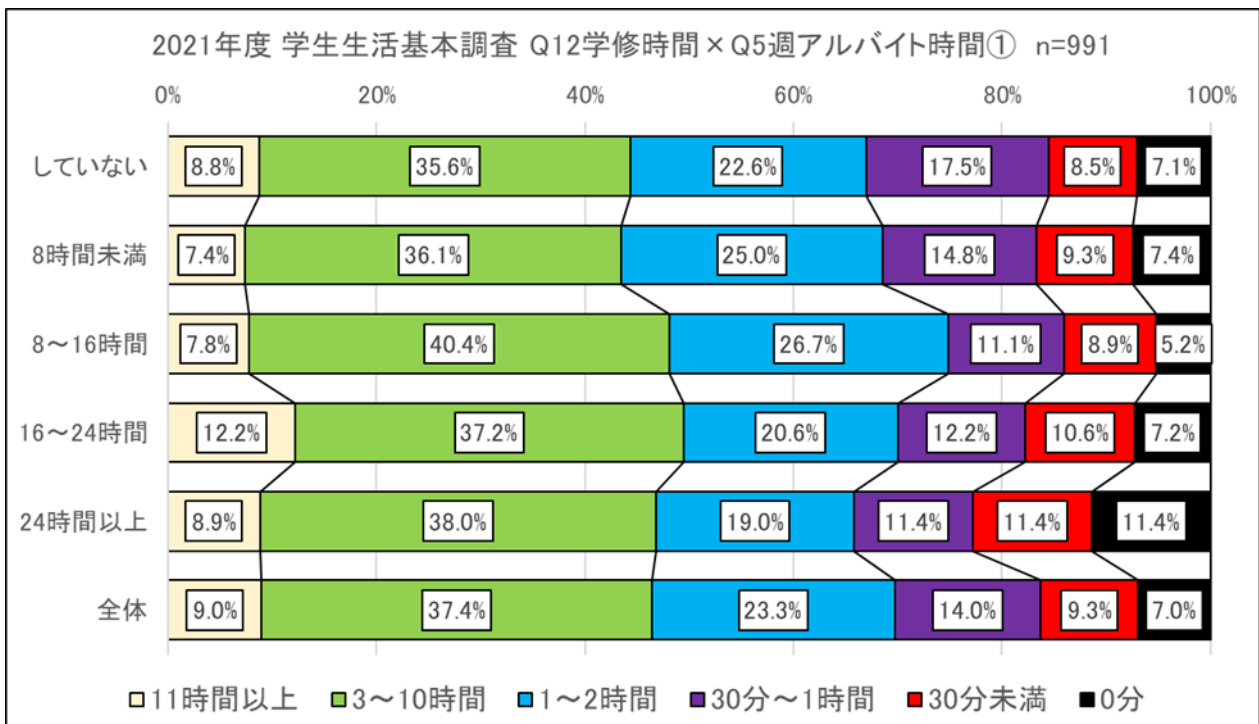
学修時間と週当たりのアルバイト時間についてのクロス集計を行いました。

週当たりのアルバイト時間の構成比は「していない」28%、「8時間未満」13%、「8～16時間」32%、「16～24時間」19%、「24時間以上」8%であり、2021年度調査よりアルバイトにかける時間数が増えています。

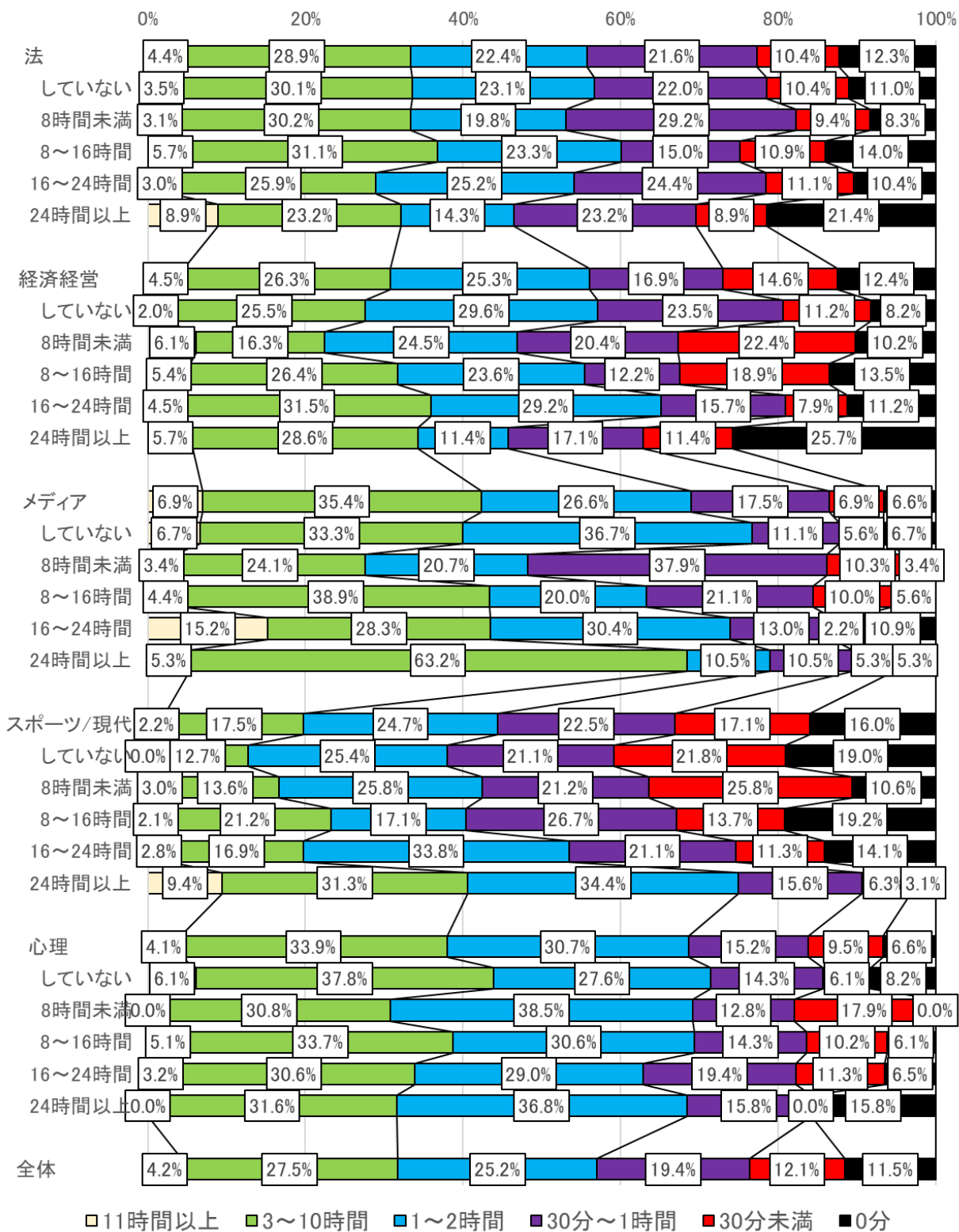
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、コロナ以前はアルバイト時間が増えるにつれて、高くなる傾向（2019年度は「0分」のみ該当）が続いていましたが、2020年度は「していない」「8時間未満」を選択した層で割合が高くなる変化が見られました。2022年度調査では、「8時間未満」を選択した層が49%でやや割合が高く、他の時間を選択した層は40%台前半でほぼ変わらない結果となりました。また、学修時間3時間以上の割合はアルバイト時間「24時間以上」が39%で最も高くなっています。



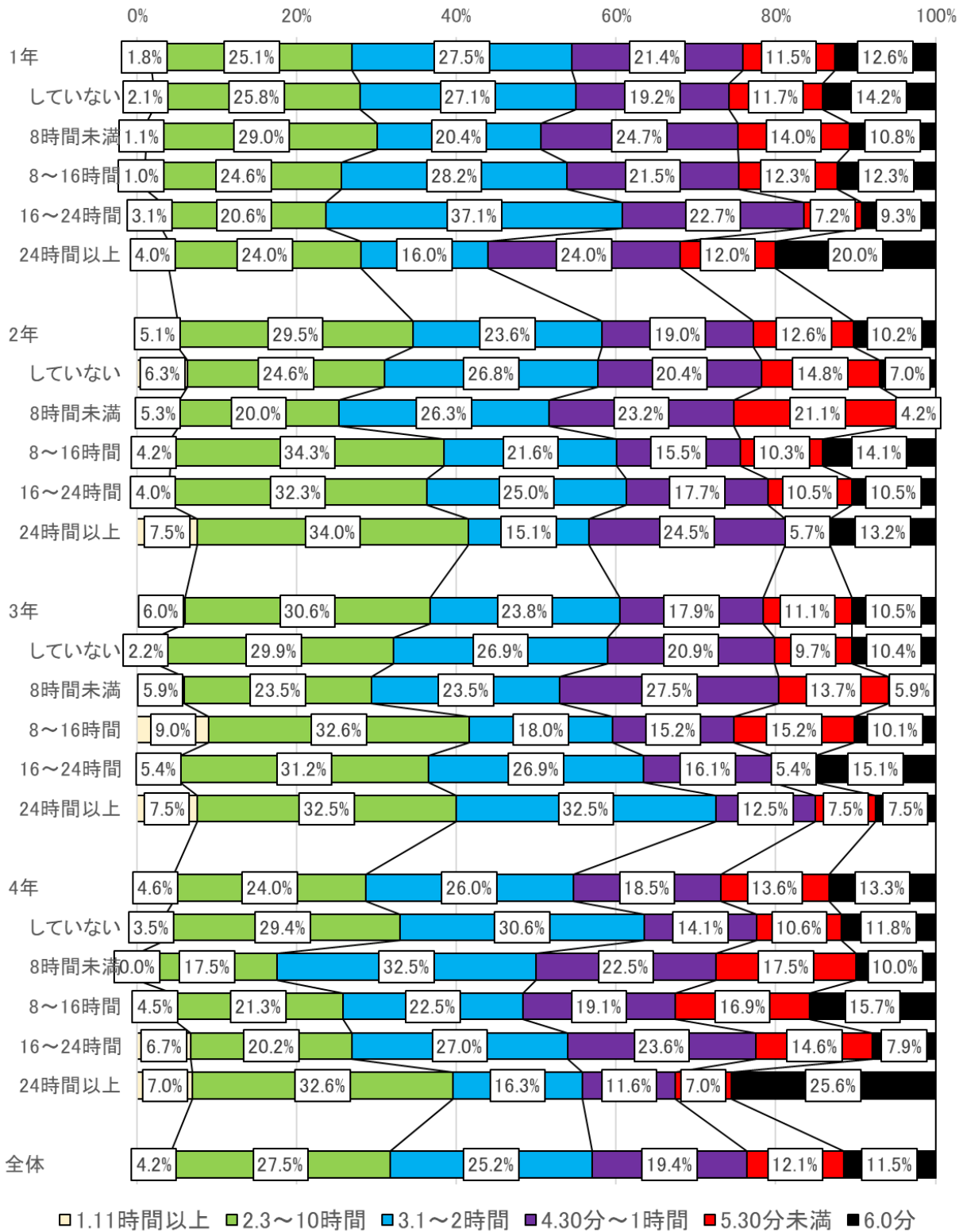
参考) 2021年度調査



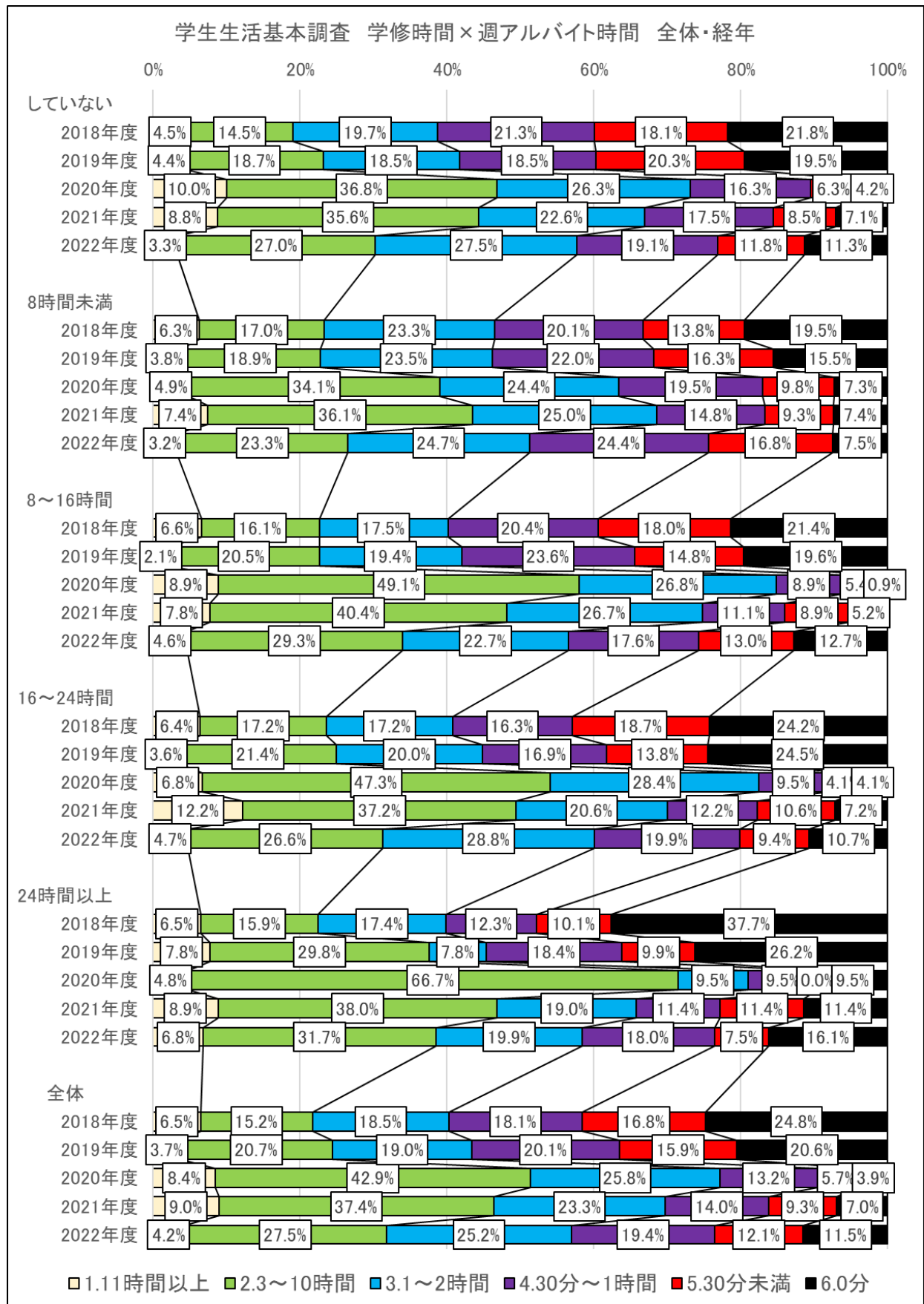
2022年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q5週アルバイト時間② n=2119



2022年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q5週アルバイト時間③ n=2119



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

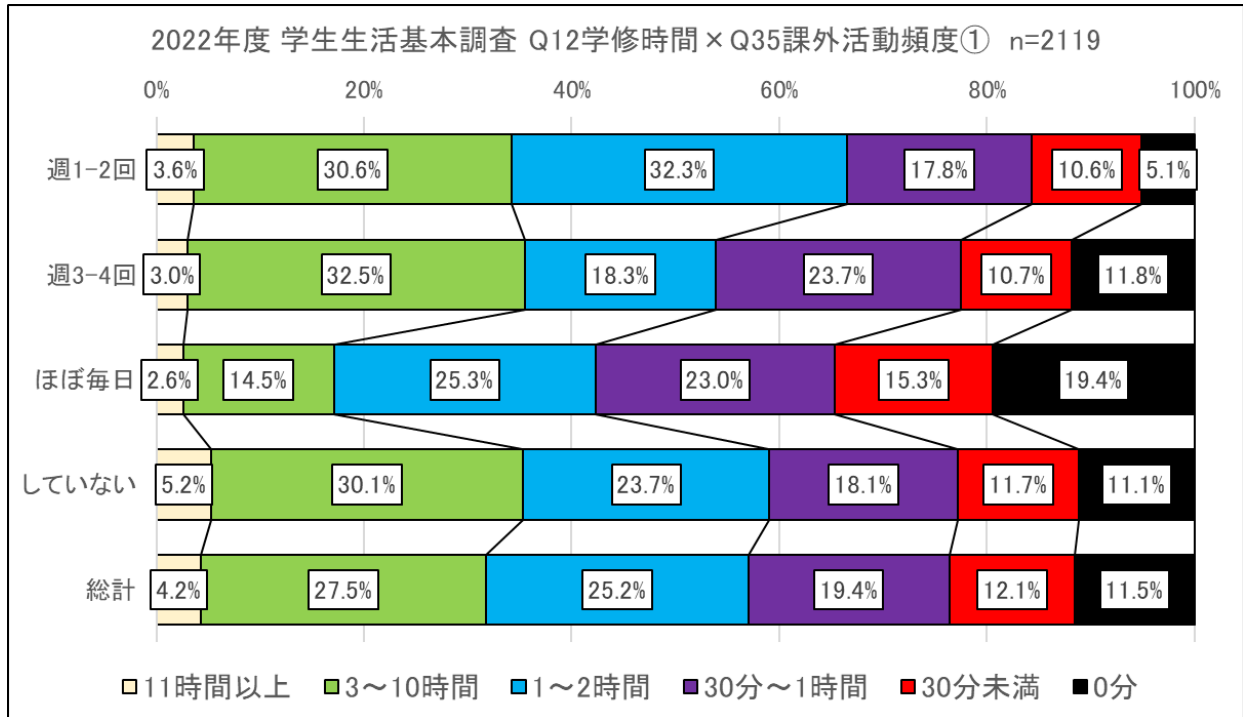


(5) 週当たり課外活動頻度とのクロス集計

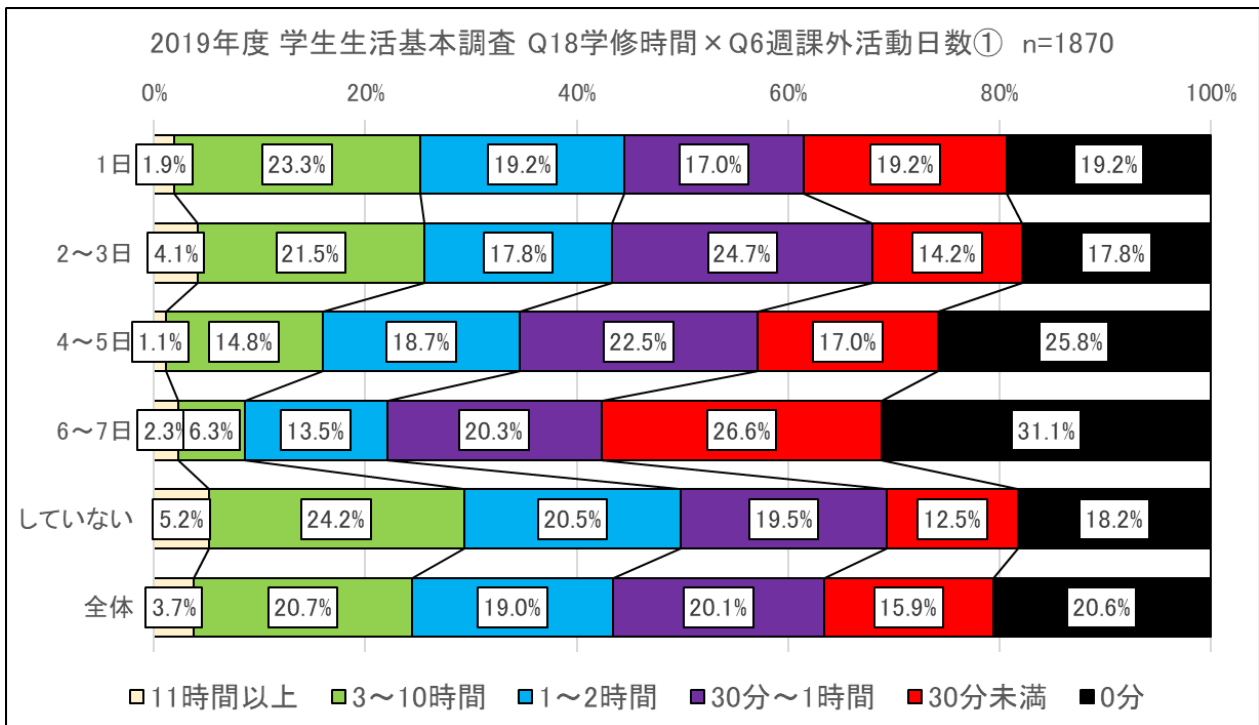
学修時間と週当たりの課外活動頻度についてのクロス集計を行いました。2020 及び 2021 年度調査では、コロナ禍により課外活動頻度に関する設問は設けていませんでした。また、コロナ以前と設問形式が異なることから経年比較は行わず、参考として 2019 年度調査のグラフを掲載することとします。

週当たりの課外活動頻度の構成比は「していない」54%、「週 1-2 回」20%、「週 3-4 回」8%、「ほぼ毎日」18%でしたが、学部で構成が異なり、スポーツ科学／現代文化学部では、「ほぼ毎日」50%、「していない」26%ですが、他の 4 学部は「していない」が 60%前後を占め、メディア情報学部では、「ほぼ毎日」は 3%でした。

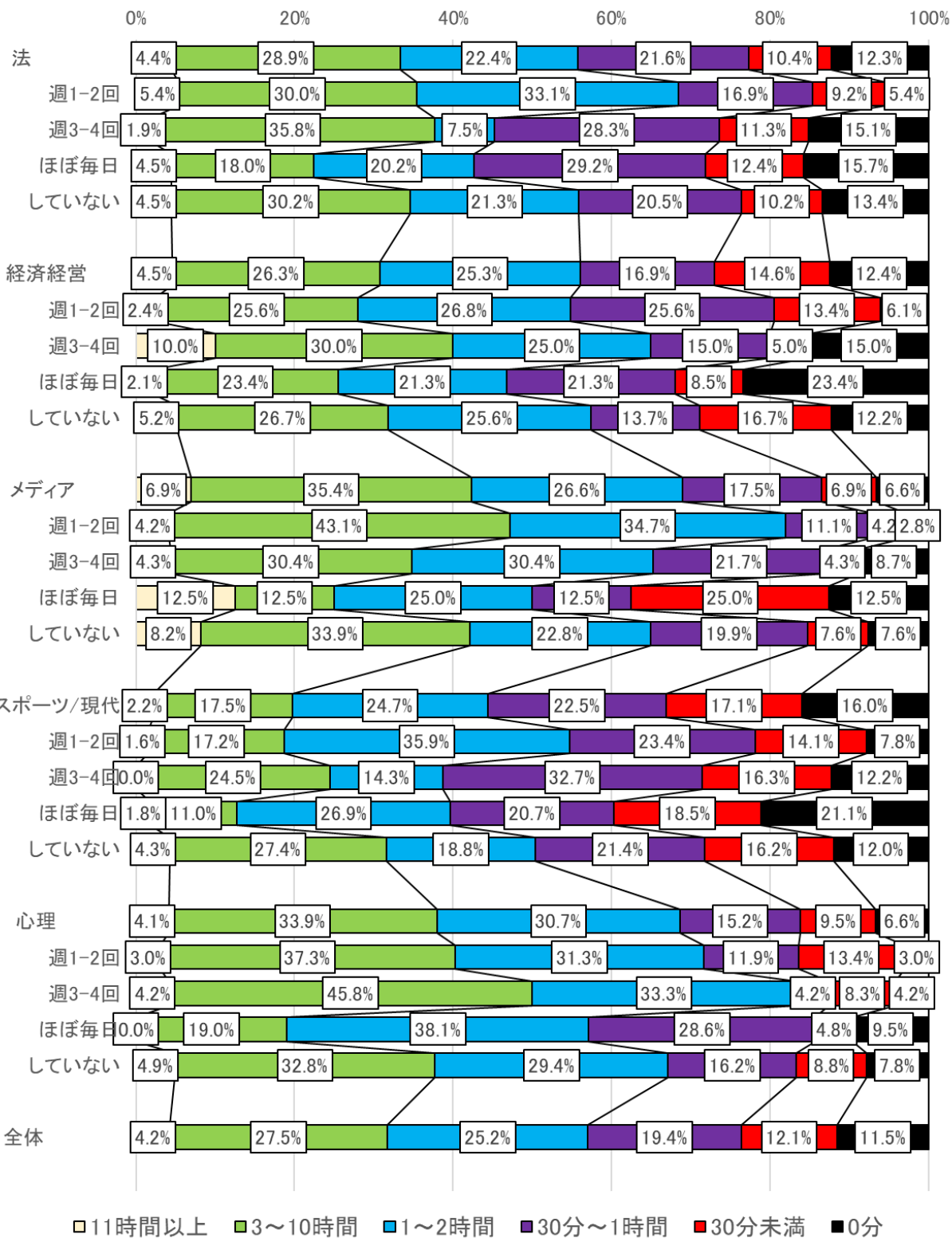
学修時間が 1 時間未満（「0 分」「30 分未満」「30 分～1 時間未満」）の割合は、課外活動頻度が増えるにつれ高くなりますが、学修時間 3 時間以上の割合は「ほぼ毎日」以外は 35%前後で変わりありません。



参考) 2019 年度調査

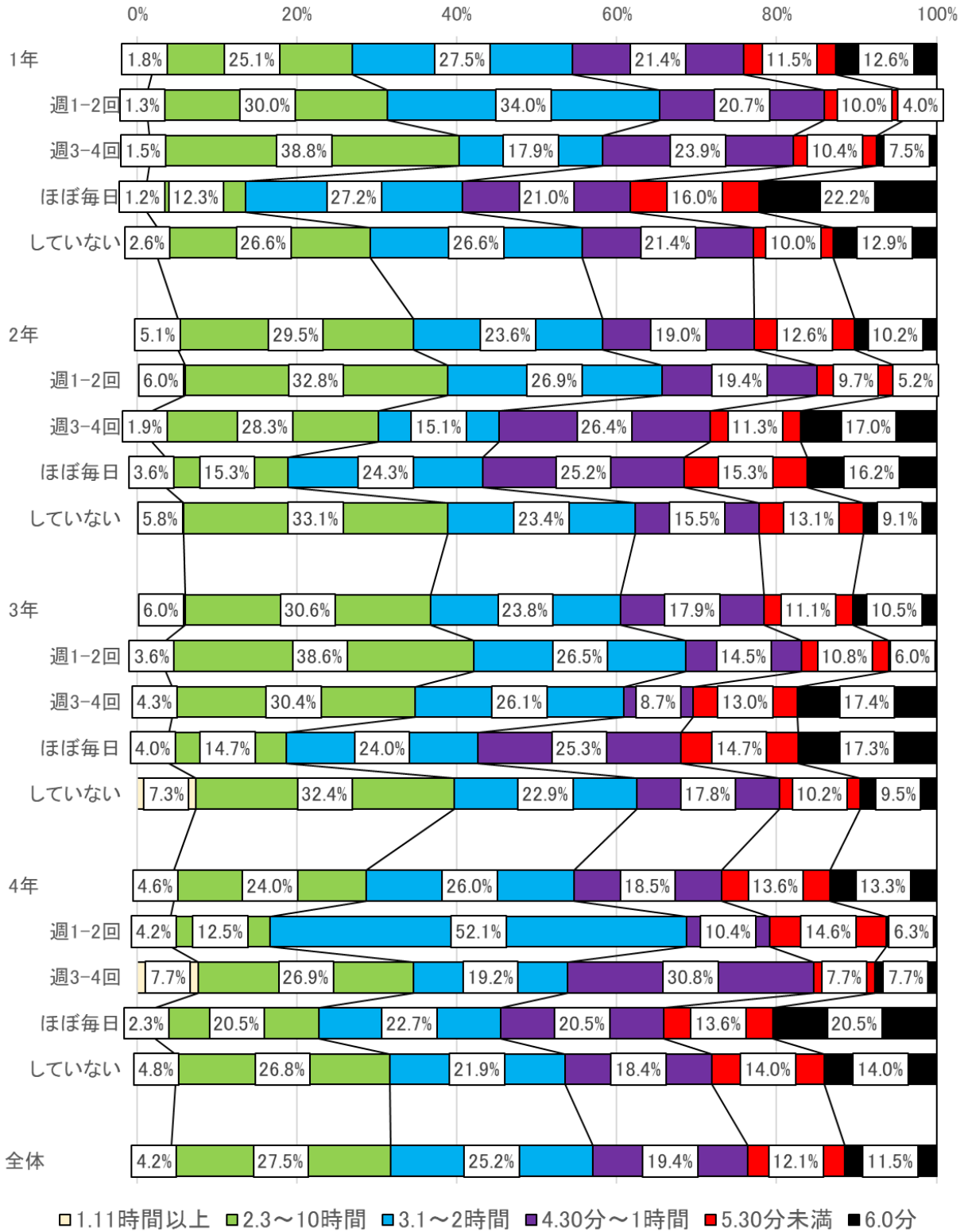


2022年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q35課外活動頻度② n=2119





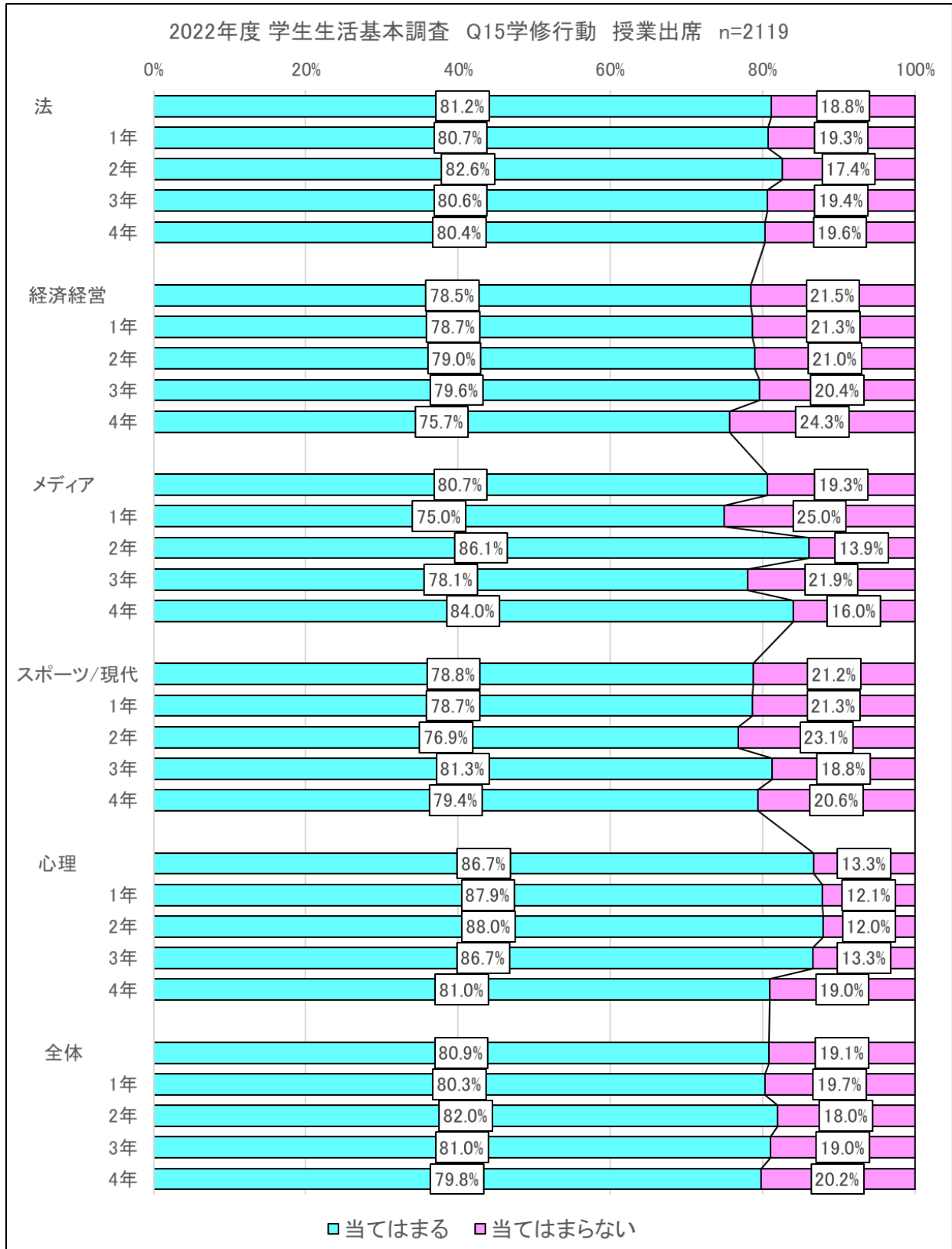
2022年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q35週課外活動頻度③ n=2119



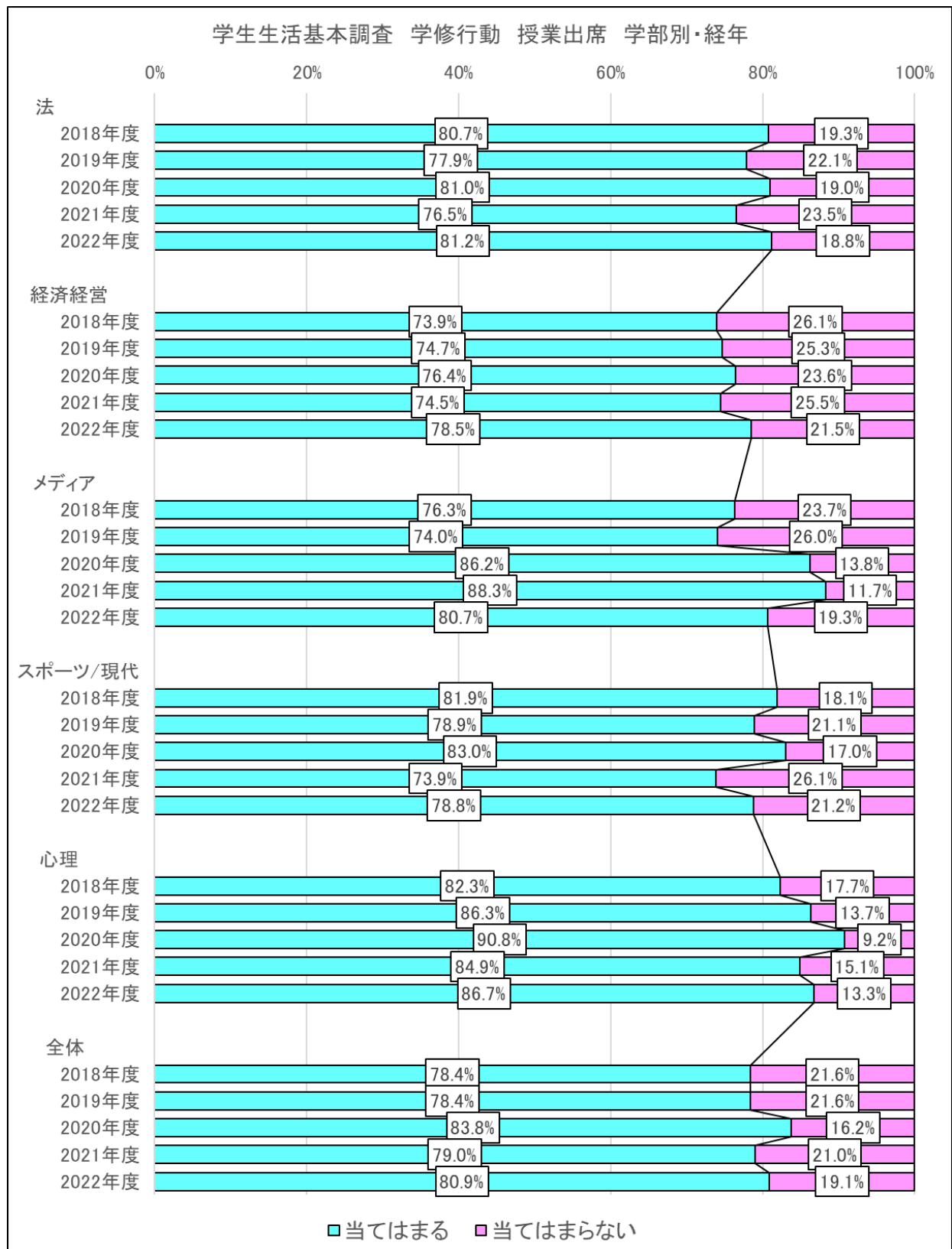
#### 4. 学修行動に関する調査結果概要

##### (1) できる限り授業に出席する

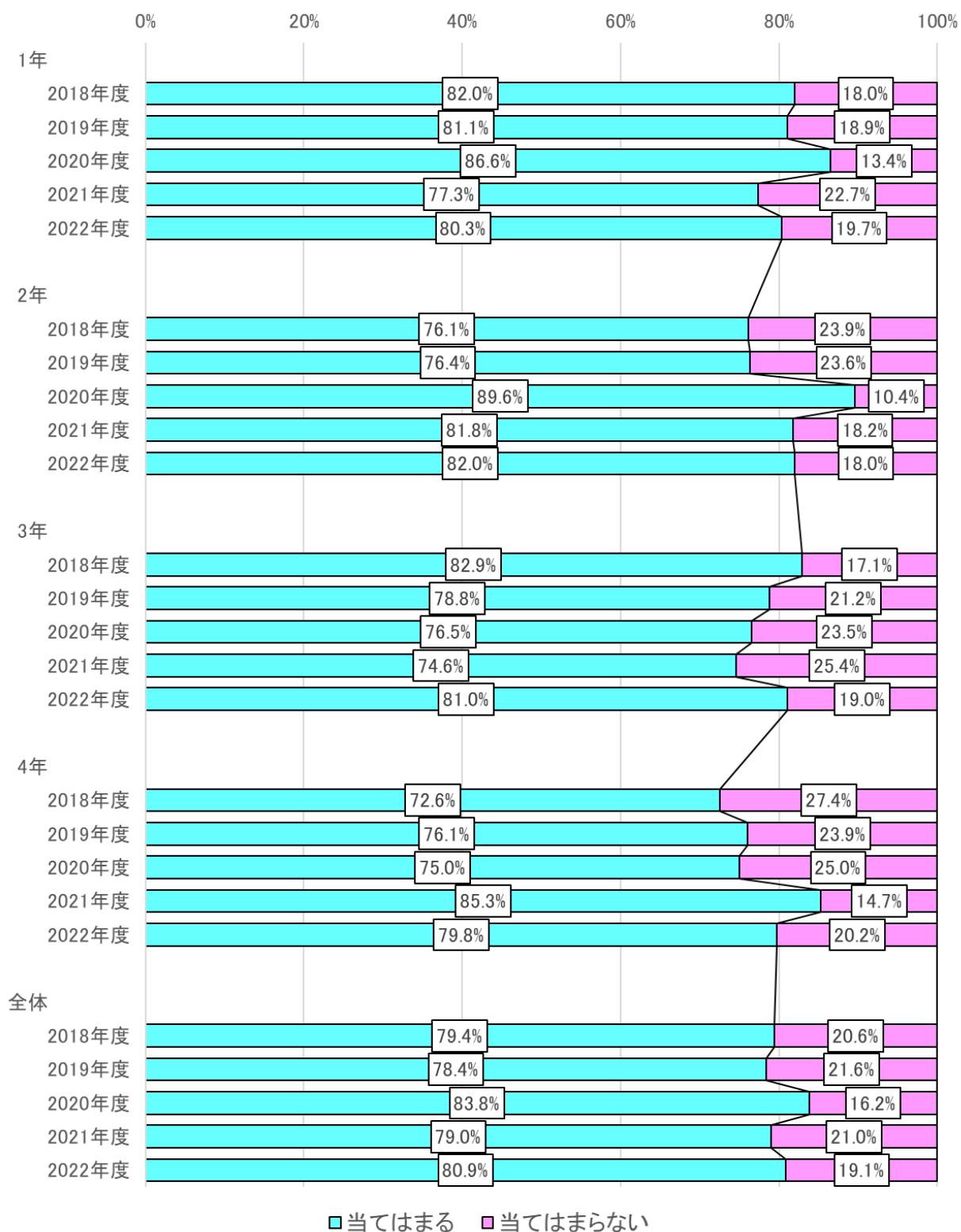
2022年度調査では、できる限り授業に出席するは、「当てはまる」を選択した層の割合が81%で前年度より2%高く、学部別では心理学部が87%と他の4学部より高くなりました。学年別では例年同様、4年次の「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。経年では、学部別でメディア情報学部、学年別で4年次の「当てはまる」を選択した層の割合がやや低下したものの、全体では80%を超えています。



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

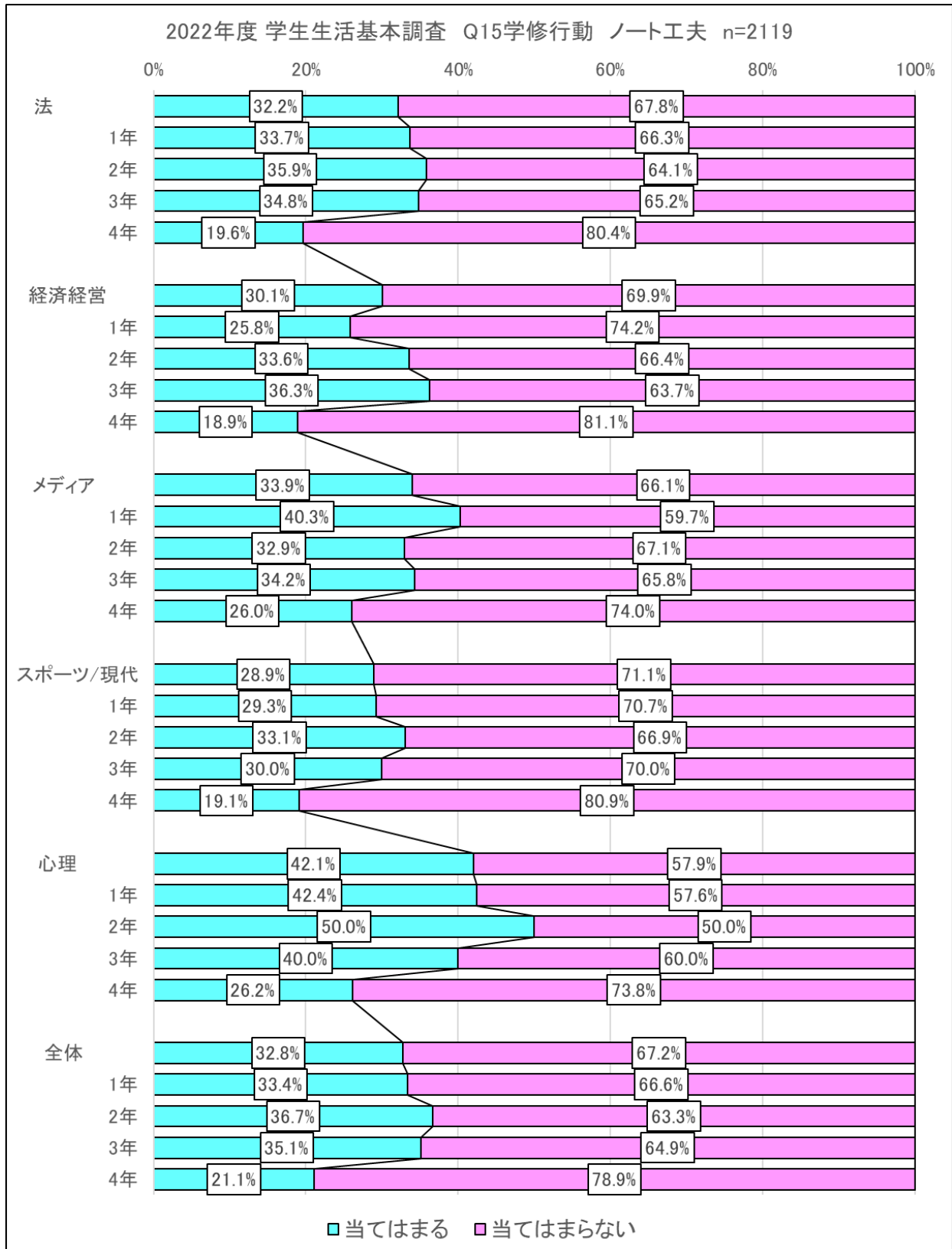


学生生活基本調査 学修行動 授業出席 学年別・経年

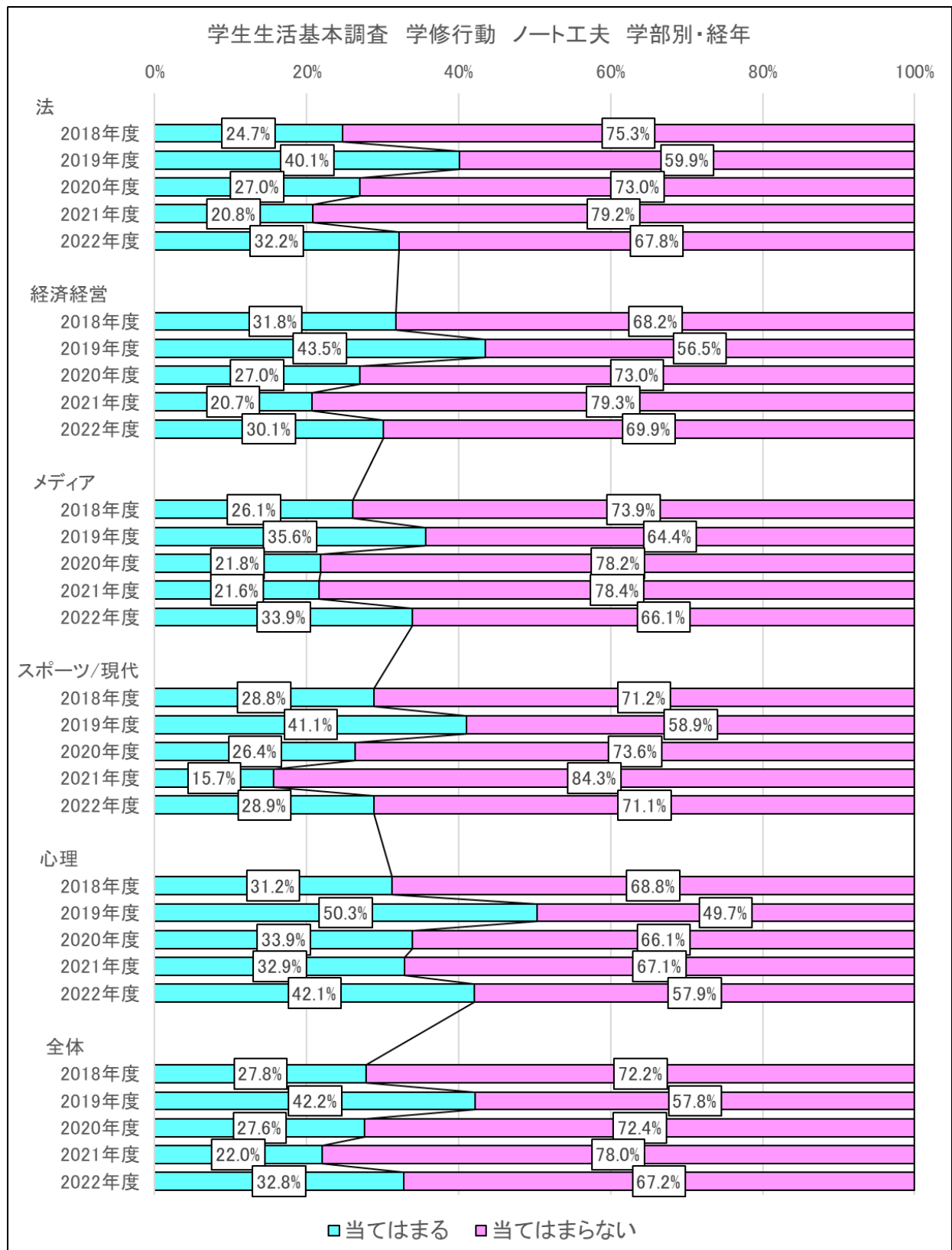


## (2) ノートの取り方を工夫する

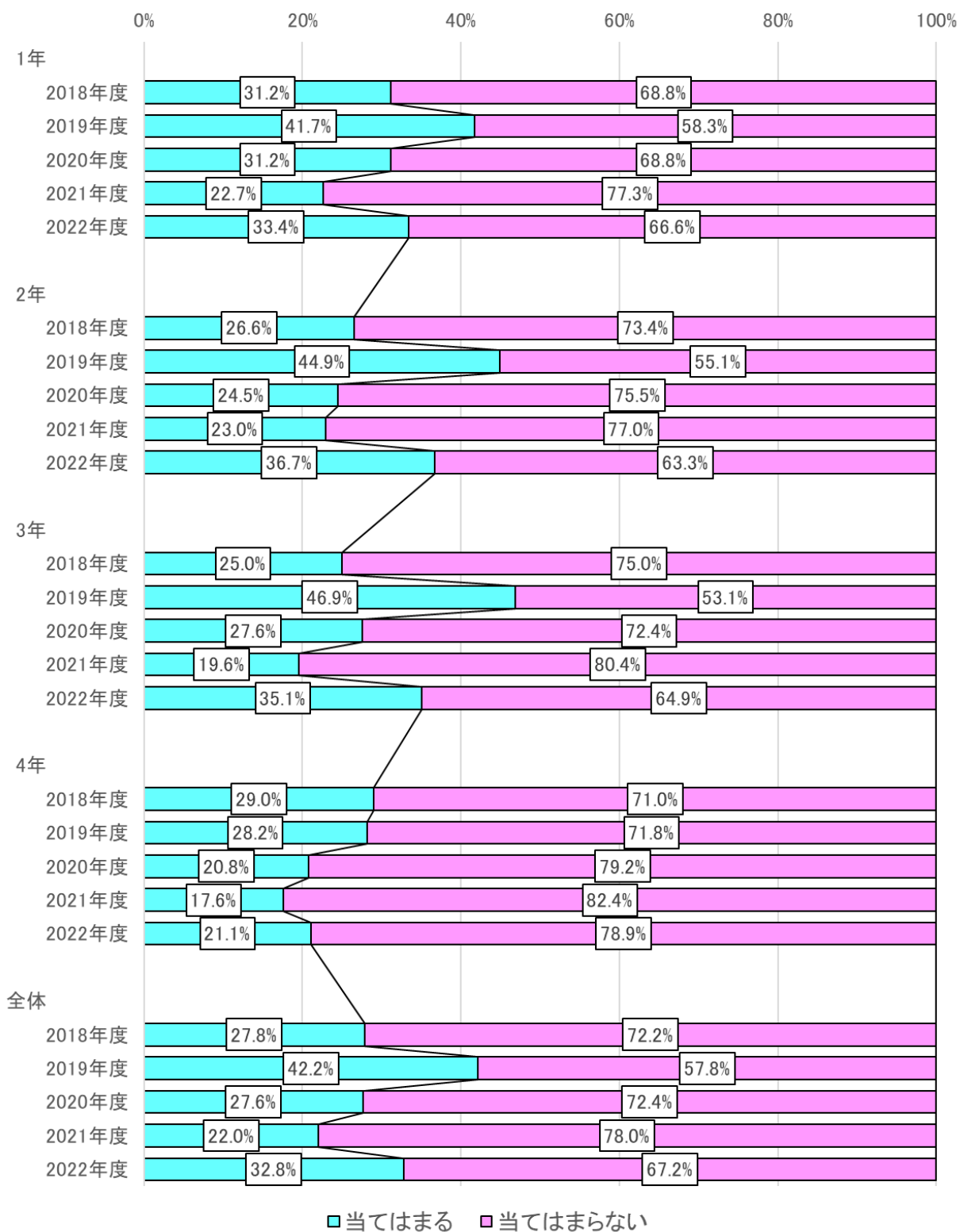
2022年度調査では、「当てはまる」を選択した層の割合は全体で33%と前年度を10%以上上回りました。学部別では、心理学部が42%でやや高く他の4学部も30%前後で前年度を上回りました。学年別では、4年次が21%と他の3学年に比べ10%以上下回っています。経年では、「当てはまる」を選択した層の割合は、5学部4学年ともにコロナ前の2019年度に次いで高くなりました。



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

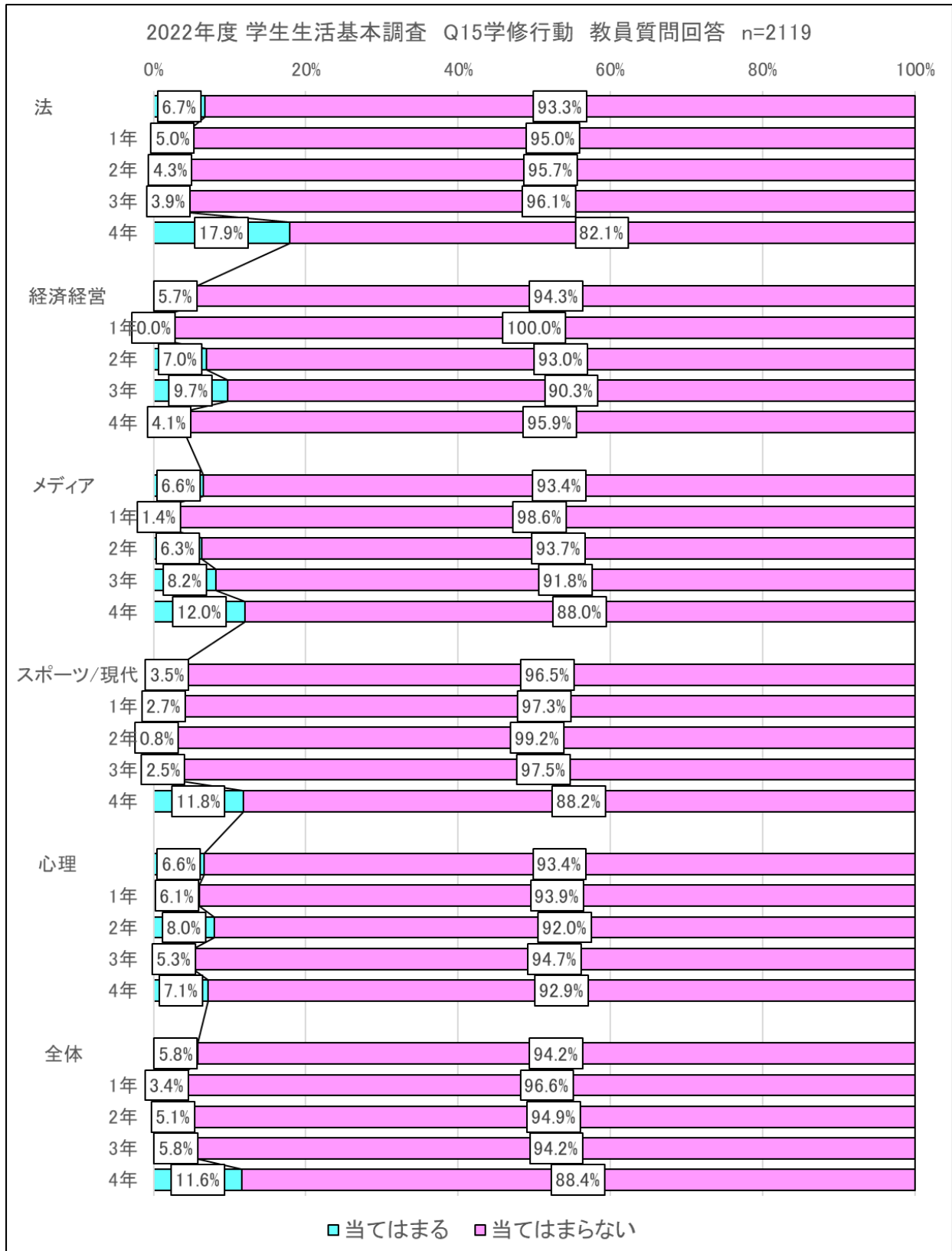


学生生活基本調査 学修行動 ノート工夫 学年別・経年



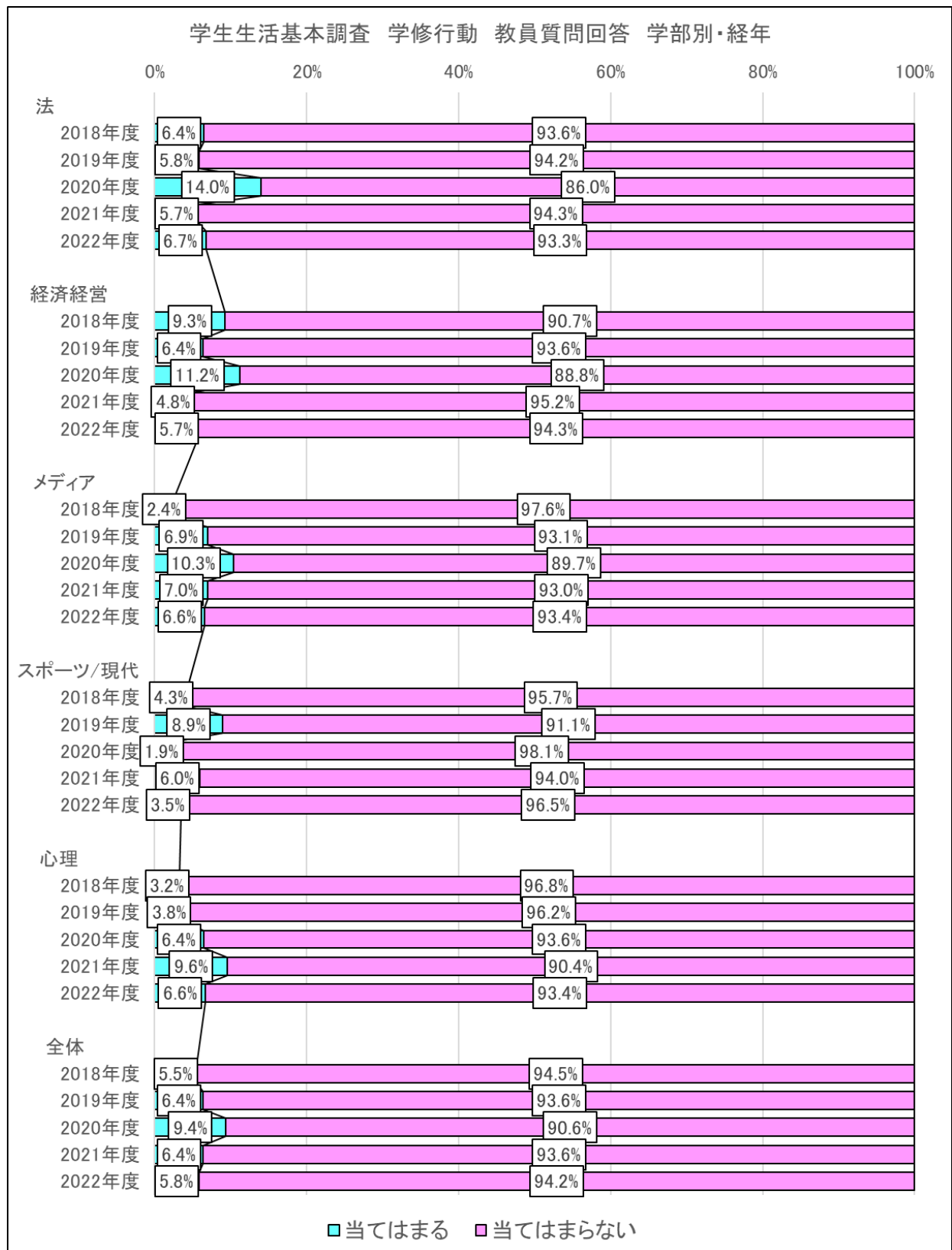
### (3) 授業中教員の質問に答える

2022年度調査では、前年度同様、全体では「当てはまる」が6%、「当てはまらない」が94%となっています。学部別ではスポーツ科学部における「当てはまる」を選択した層の割合が4%で、他の4学部は6～7%でした。学年別では4年次が12%であり、1年次は3%で低くなっています。経年では、2020年度には全体で9%が「当てはまる」を選択していましたが、以外の年度は6%前後で推移しています。

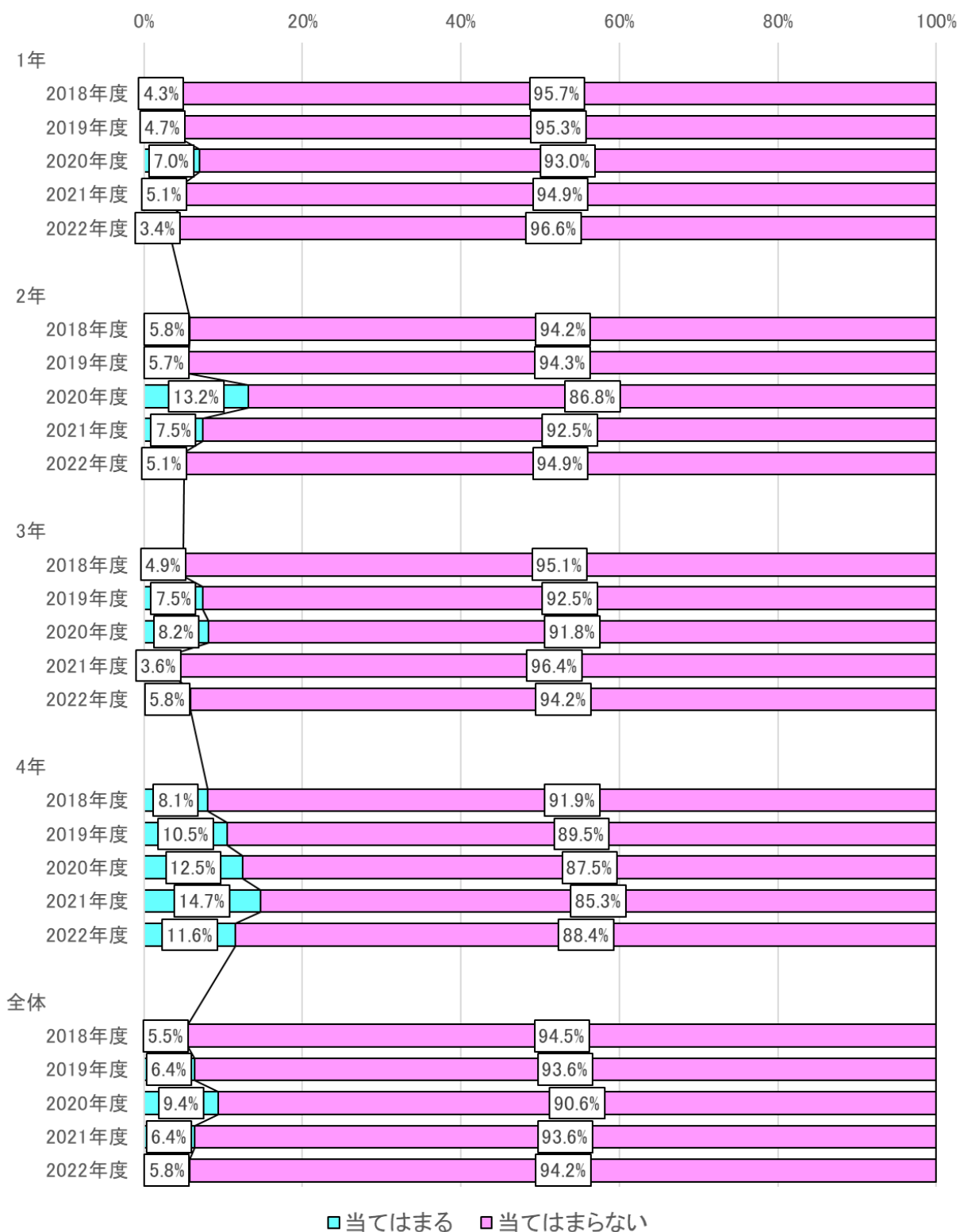




参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

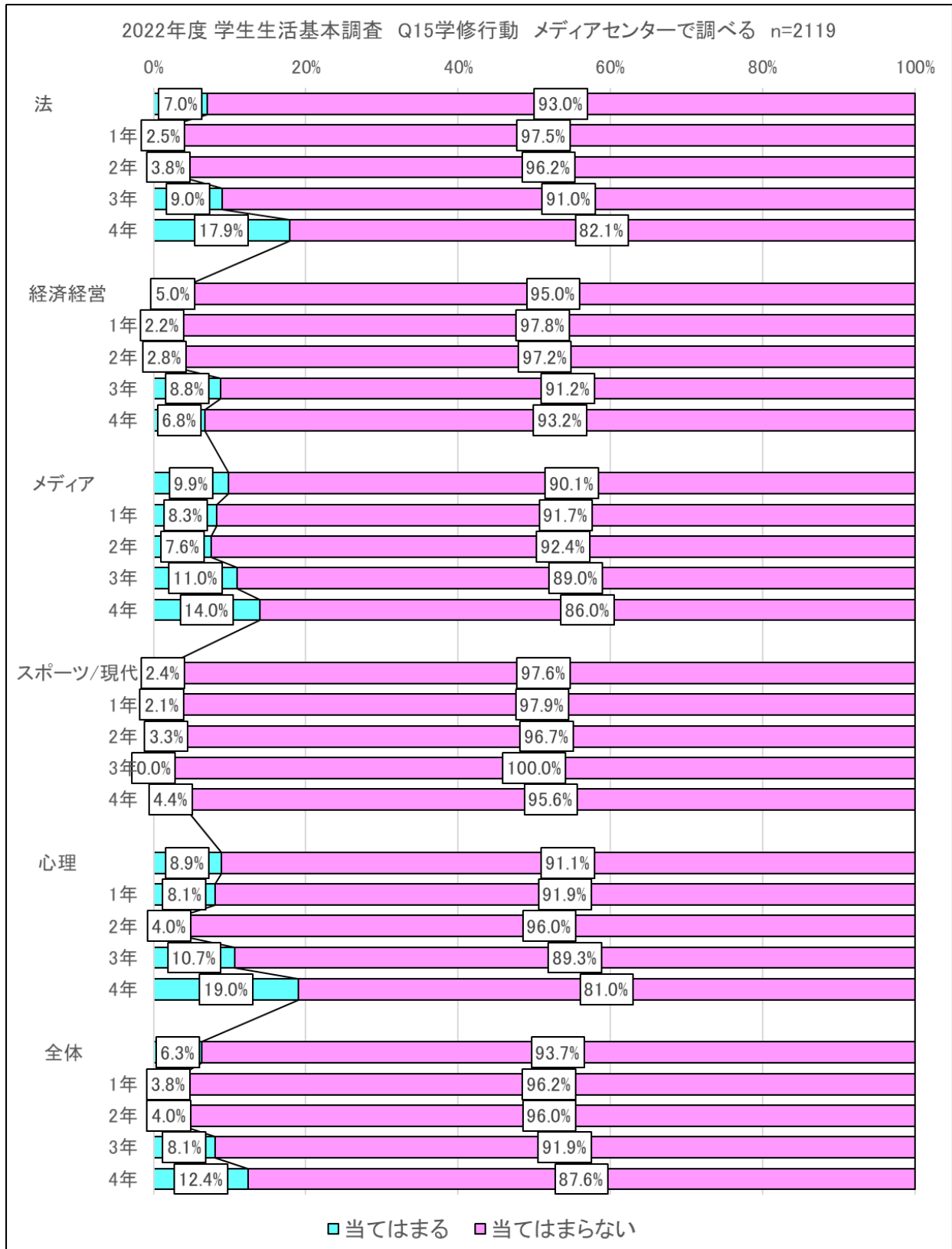


学生生活基本調査 学修行動 教員質問回答 学年別・経年

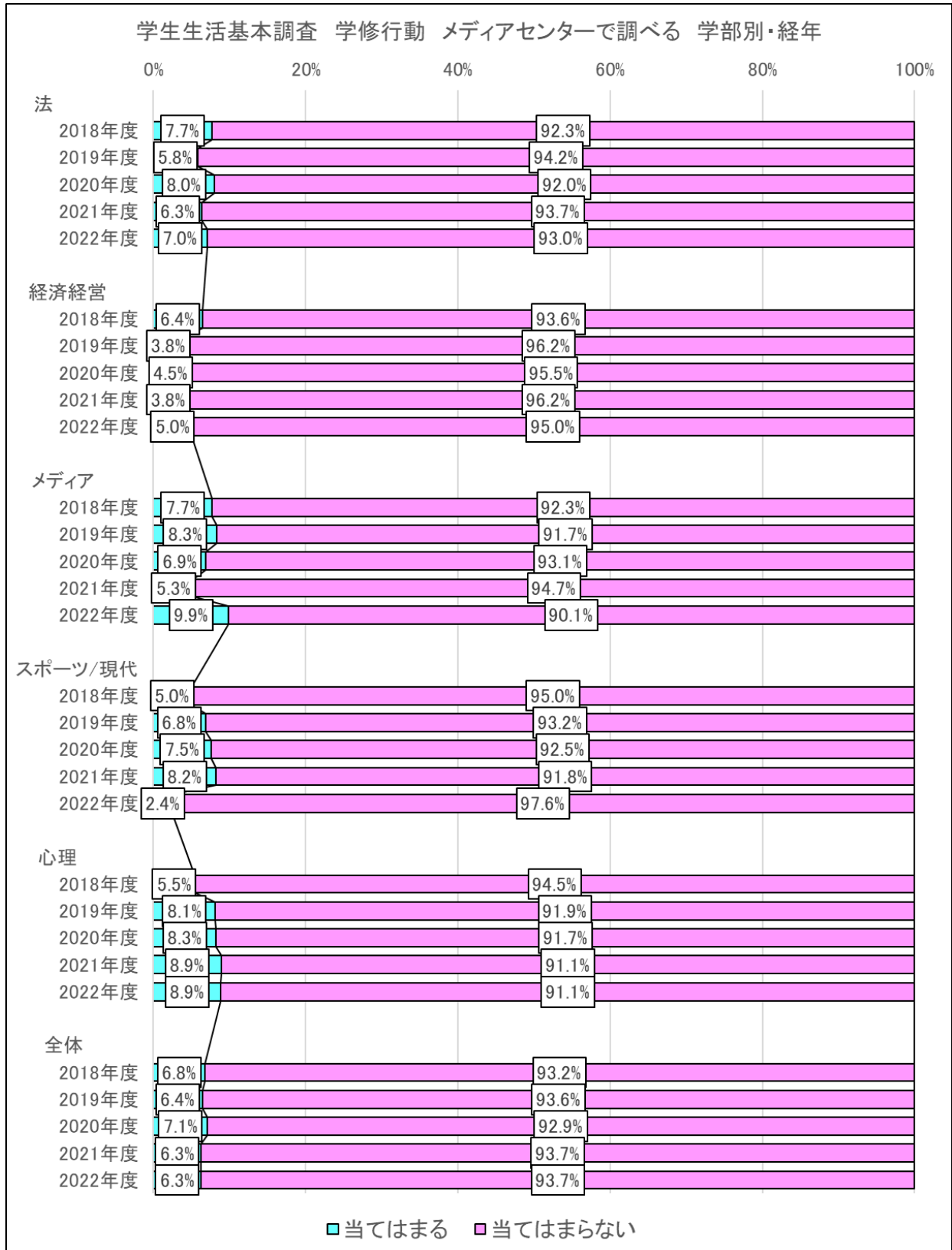


#### (4) メディアセンターで調べる

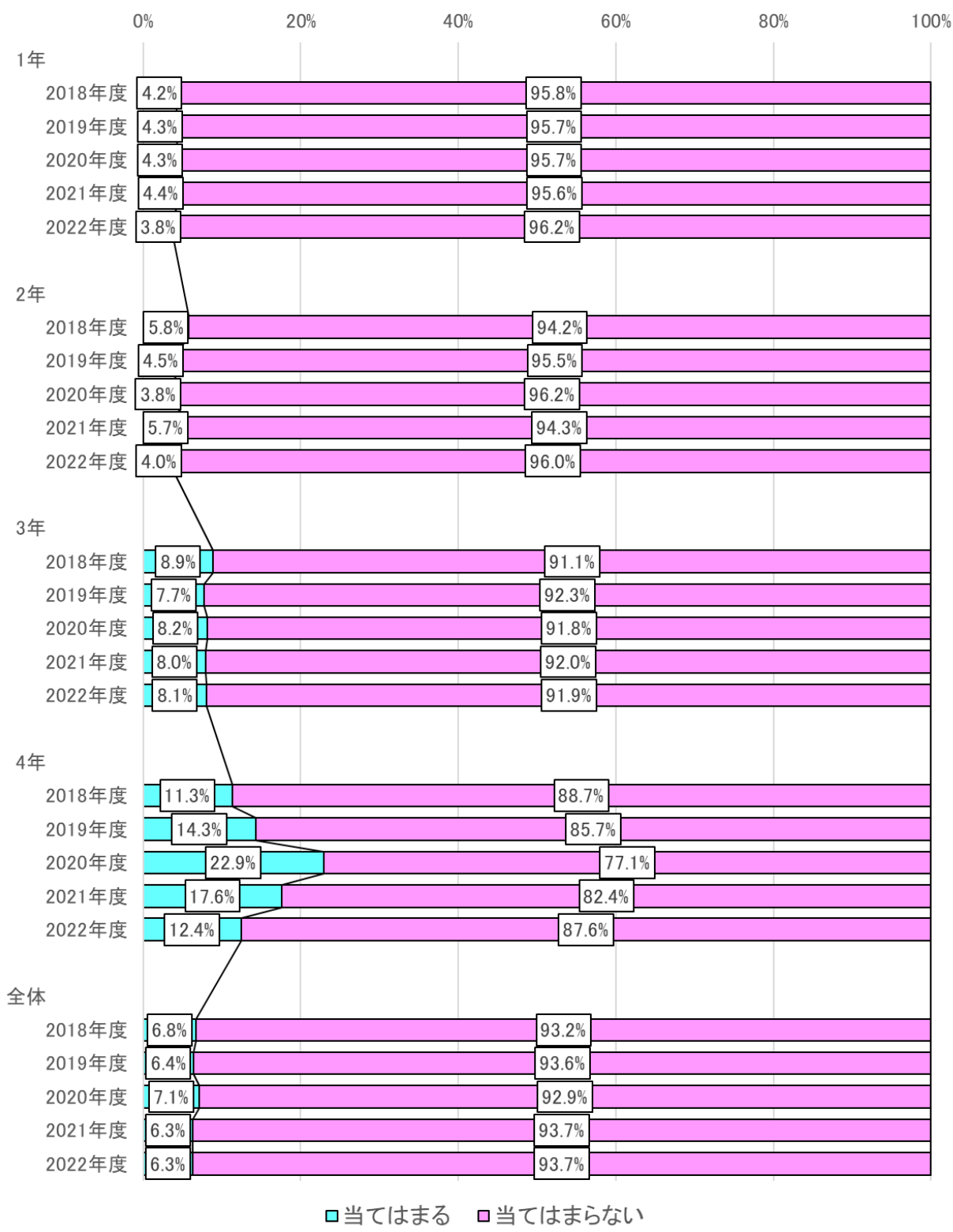
2022年度調査では、全体で「当てはまる」が6%、「当てはまらない」が94%となっています。学部別ではスポーツ科学部/現代文化学部で「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。学年別では3・4年、特に4年生で「当てはまる」を選択した層の割合が高くなっており、卒業論文・ゼミ論文作成の関係と考えられます。経年でも2020年度の4年次生以外は5年間ほぼ同様の結果が継続しています。



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

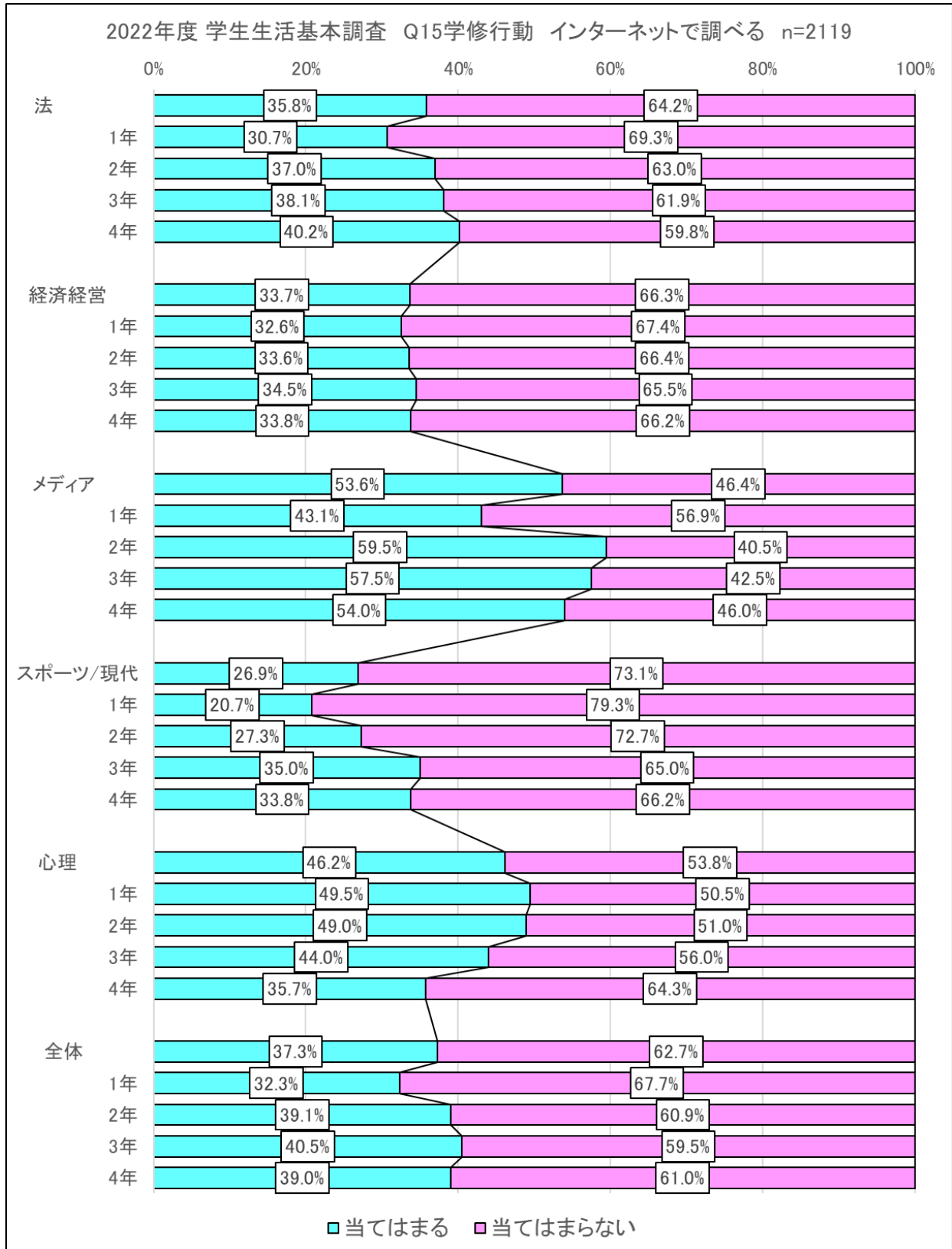


学生生活基本調査 学修行動 メディアセンターで調べる 学年別・経年

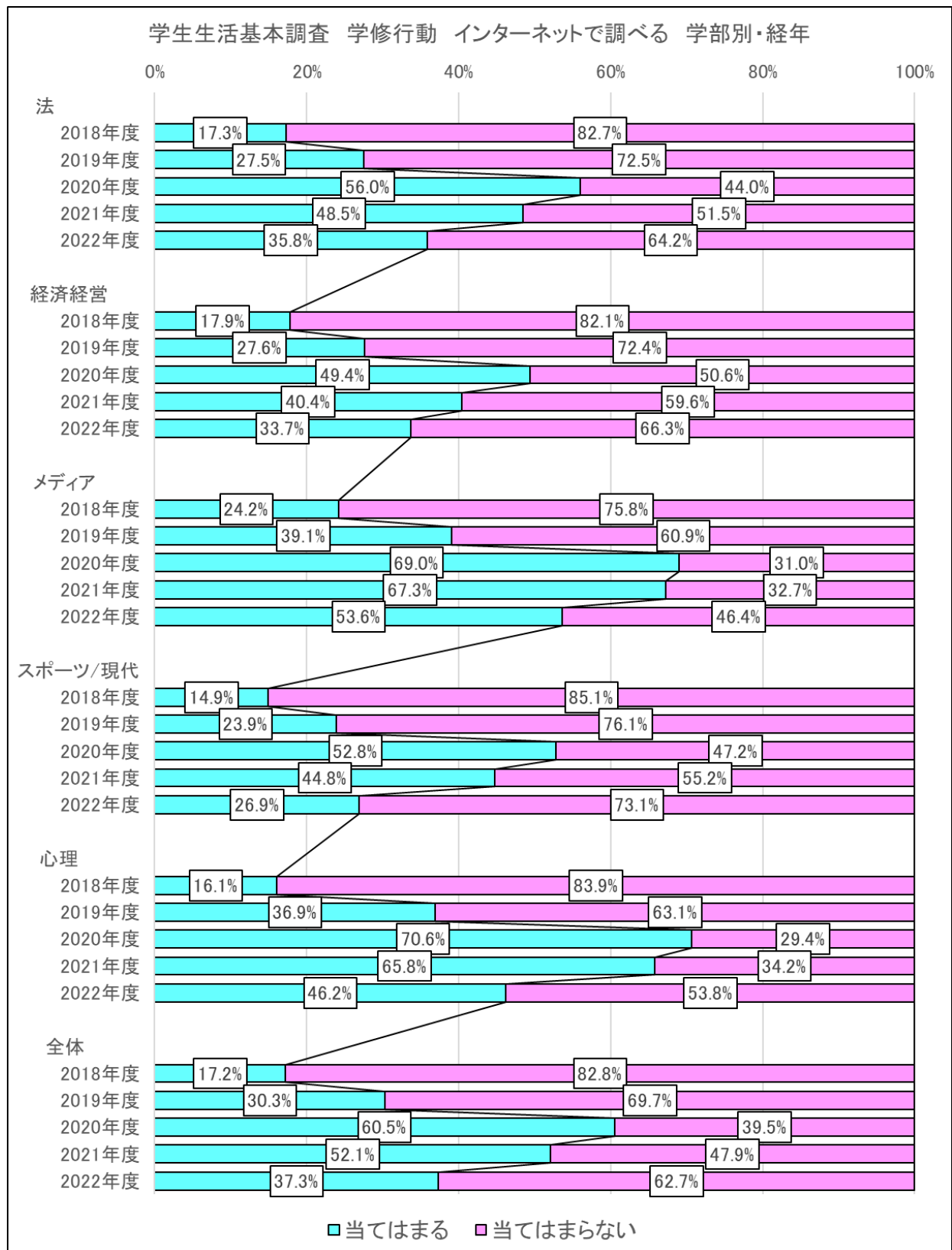


### (5) インターネットで調べる

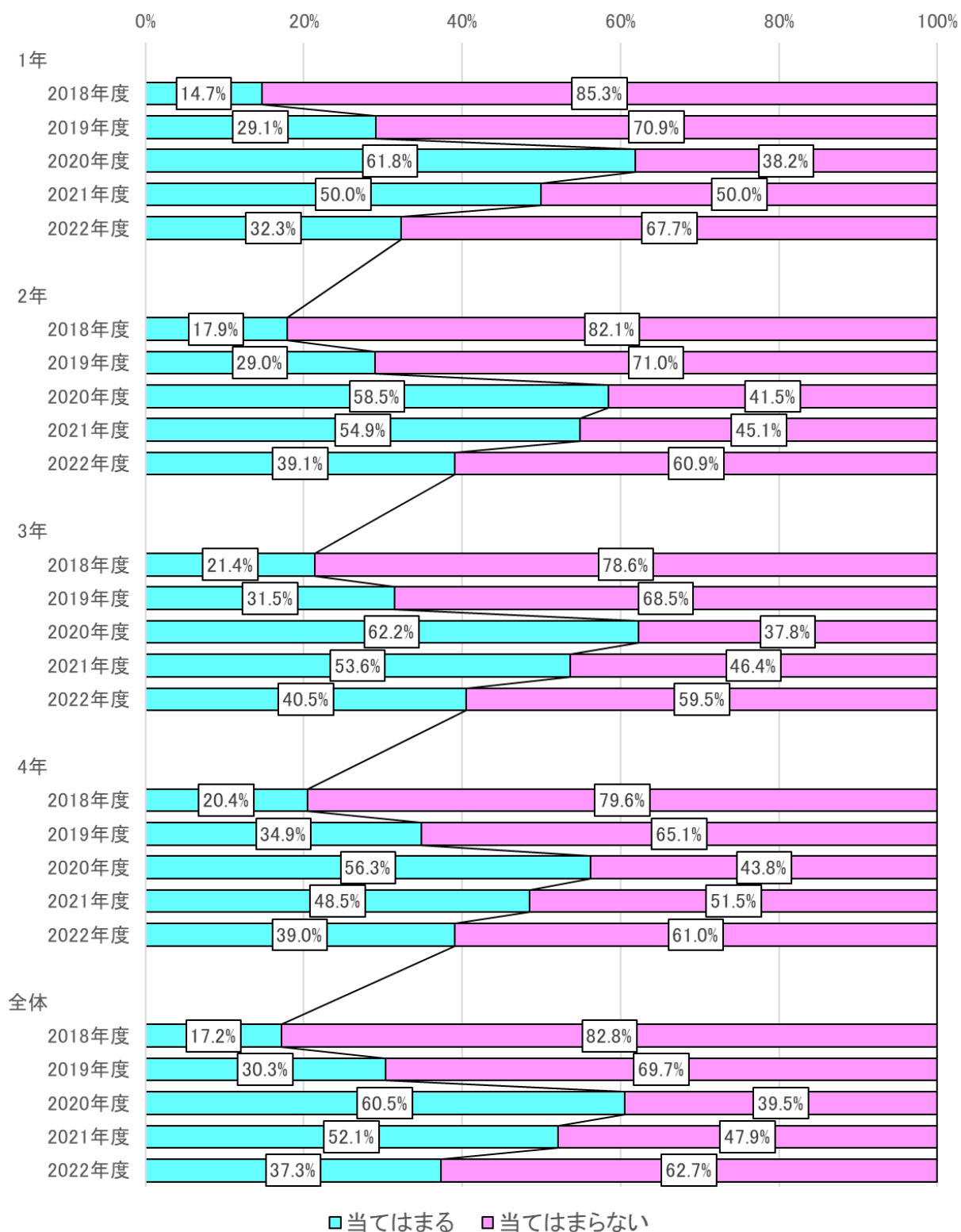
2022年度調査では、全体では37%が「当てはまる」、63%が「当てはまらない」となっています。学部別では、2019年度調査以降のメディア情報学部及び心理学部で「当てはまる」の割合が高い傾向が継続しています。学年別では顕著な差は見られません。経年では、2019年度にWeb調査に変更した際に「当てはまる」の割合が高くなる変化が見られましたが、2020年度以降の2年間は「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなりましたが、オンライン授業から対面授業に戻るにつれ低下傾向にあります。



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較



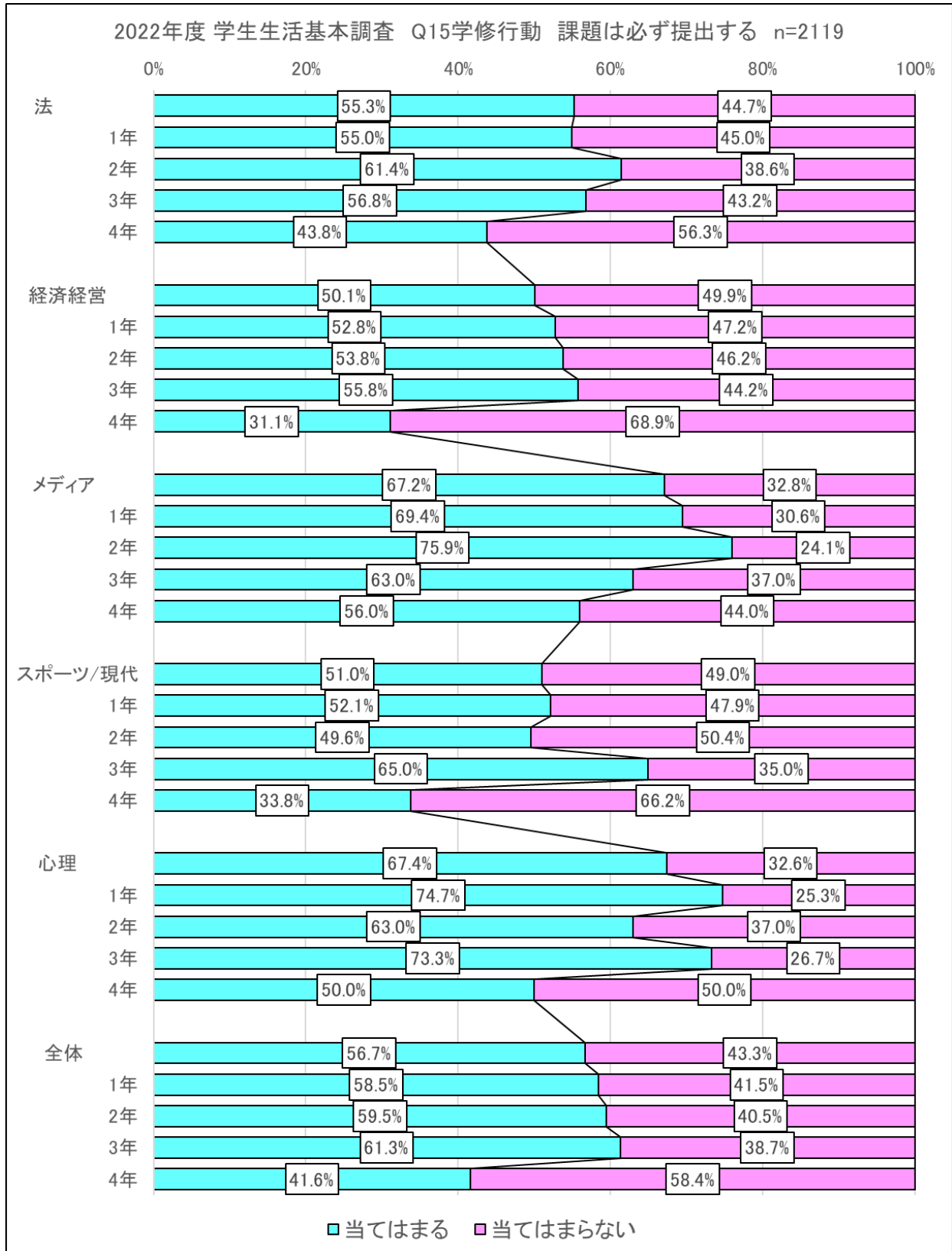
学生生活基本調査 学修行動 インターネットで調べる 学年別・経年



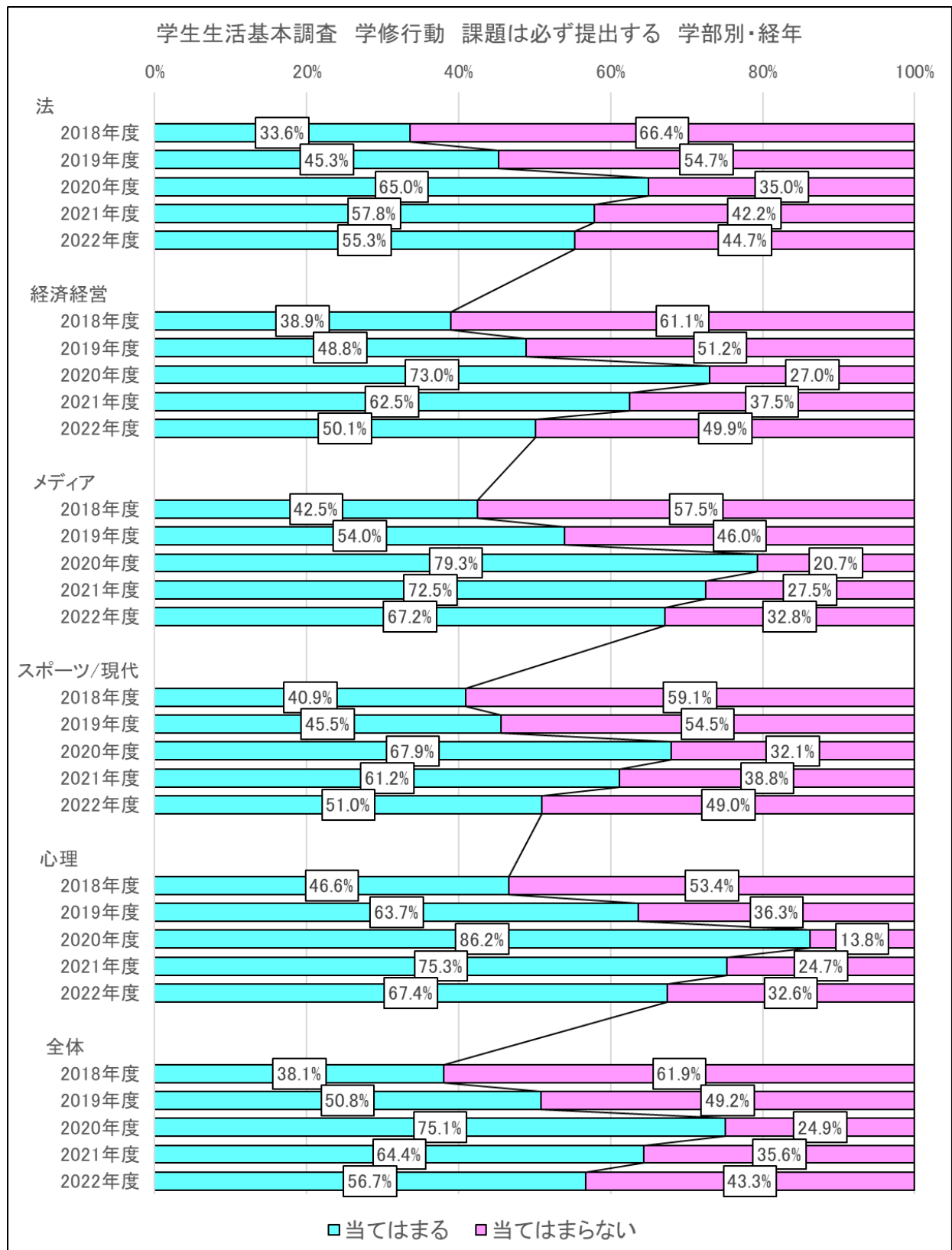


### (6) 宿題・課題は必ず提出する

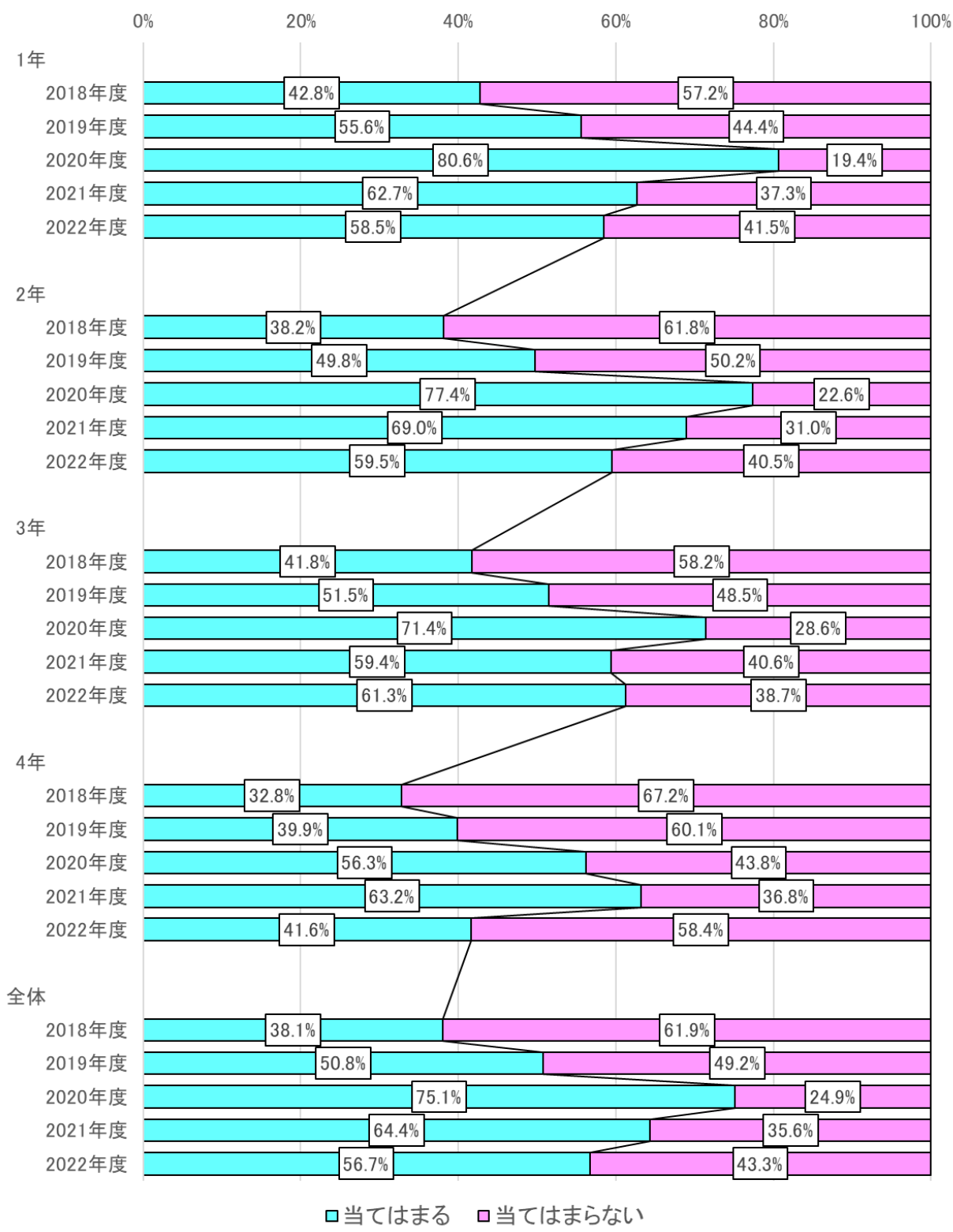
2022年度調査では、全体で57%が「当てはまる」、43%が「当てはまらない」となっています。学部別では、メディア情報学部・心理学部で「当てはまる」を選択した層の割合が高くなっています。学年別では4年次で「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。経年では、コロナ禍の2年間はオンライン授業による宿題・課題の増加傾向の影響もあり「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなりましたが、前問同様に2022年度は割合が低くなっています。



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

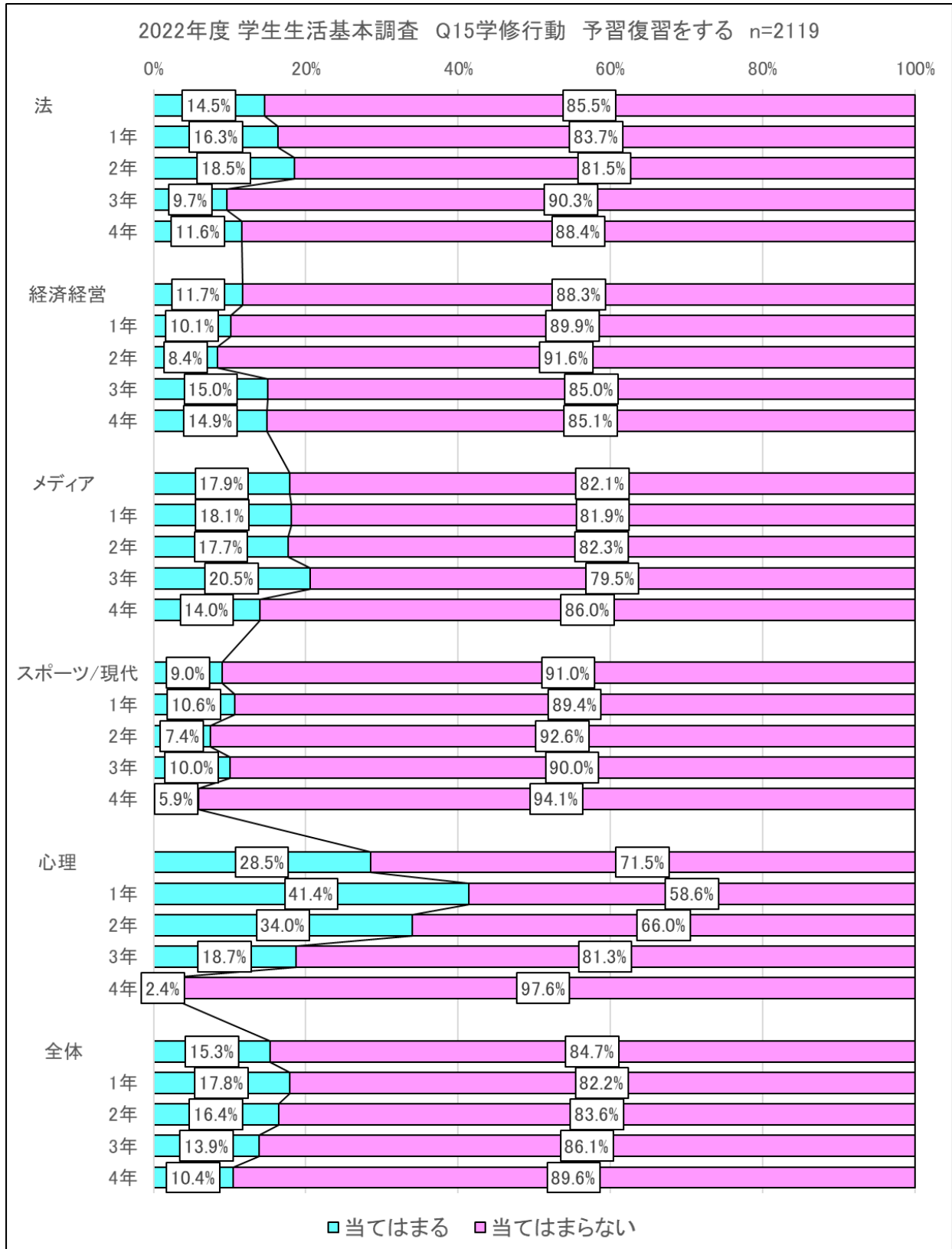


学生生活基本調査 学修行動 課題は必ず提出する 学年別・経年

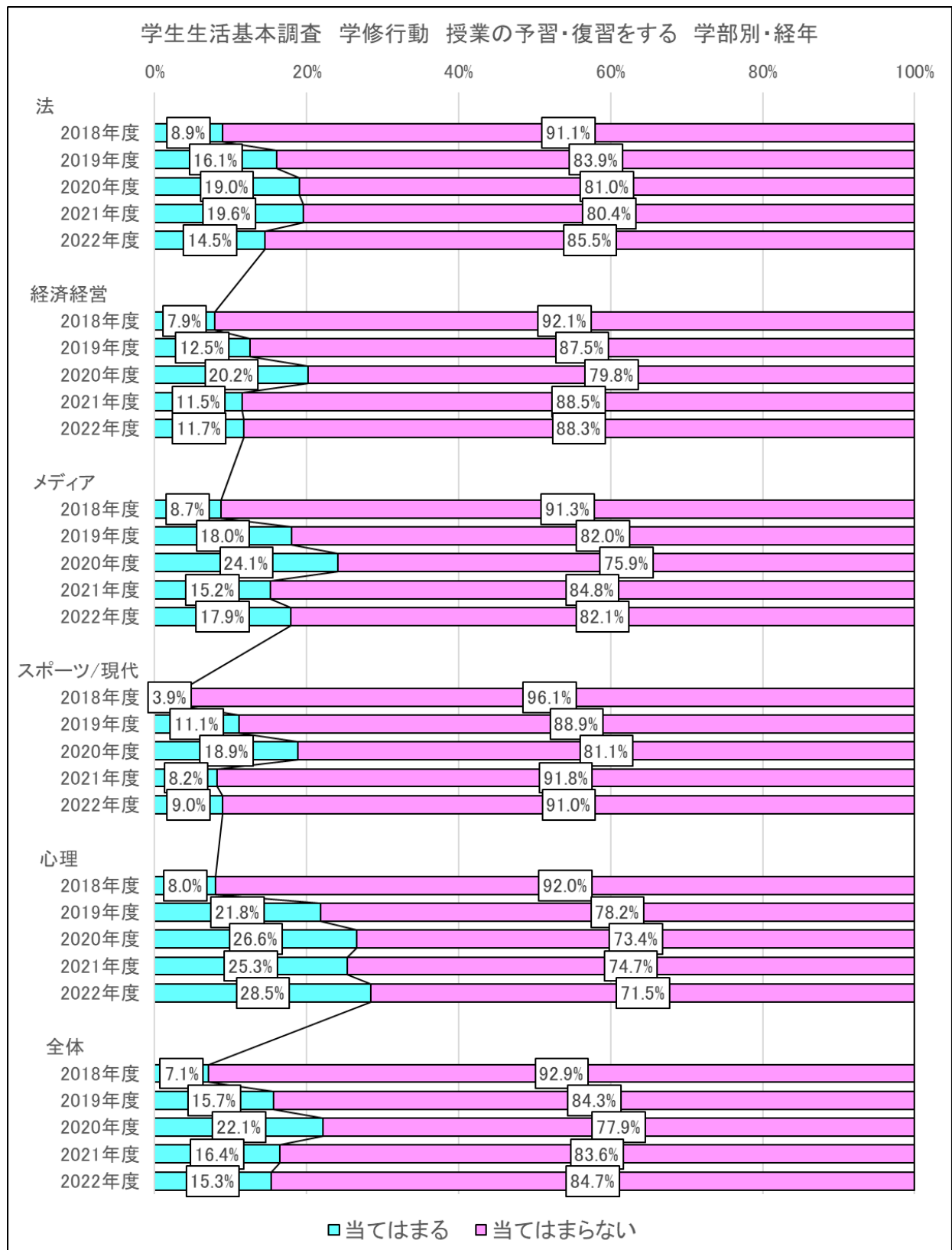


(7) 授業の予習・復習をする

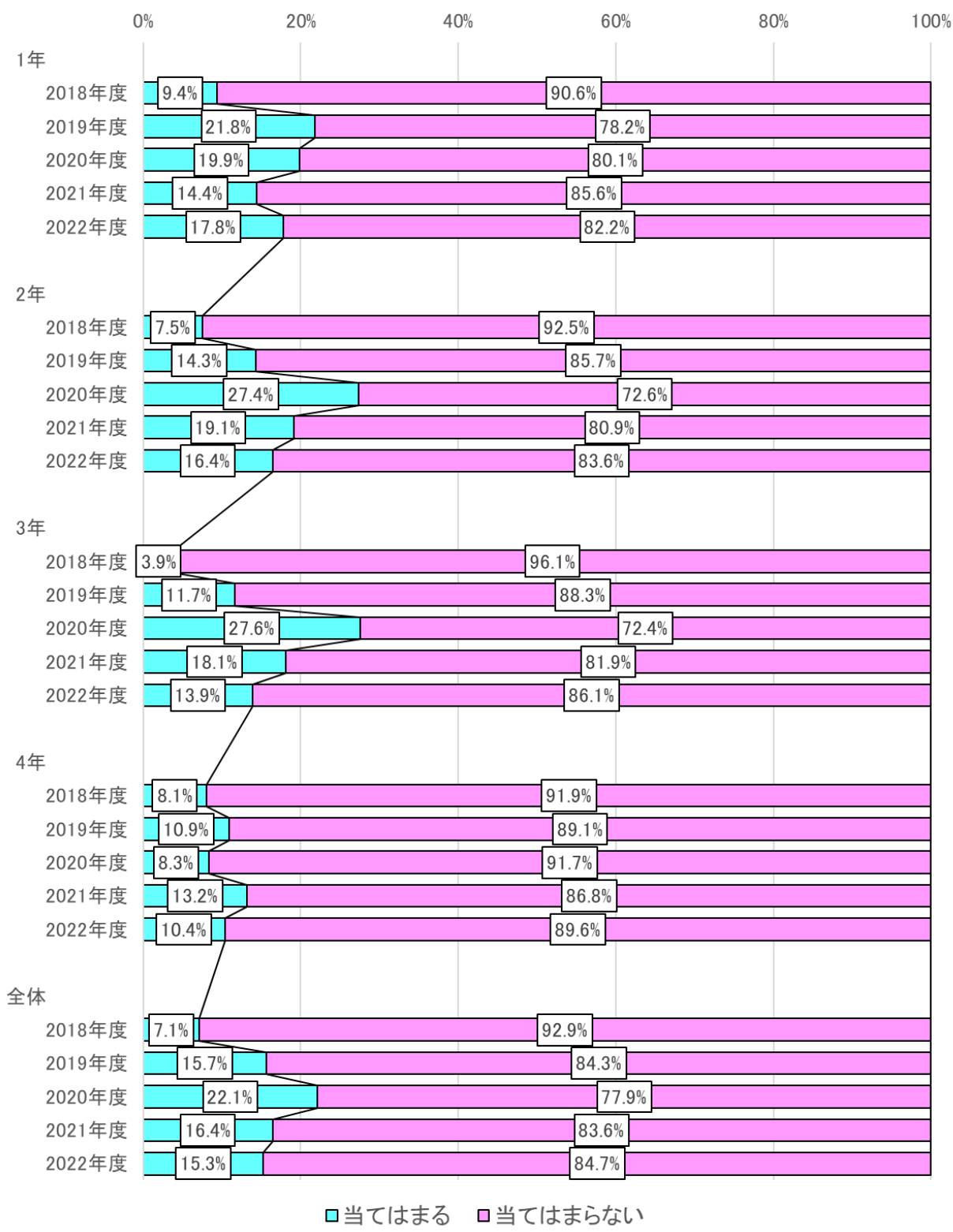
2020年度調査では、全体で15%が「当てはまる」、85%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部で「当てはまる」が29%と選択した層の割合が高く、スポーツ科学/現代文化学部で9%と低くなっています。学年別では学年が上がるにつれ「当てはまる」の割合がやや低くなっています。経年では、2019年度にWeb調査に変更した際に「当てはまる」の割合が高くなる変化が見られ、2020年度の22%を除き15%前後で推移しています。



参考) 2018年度から2022年度調査経年比較

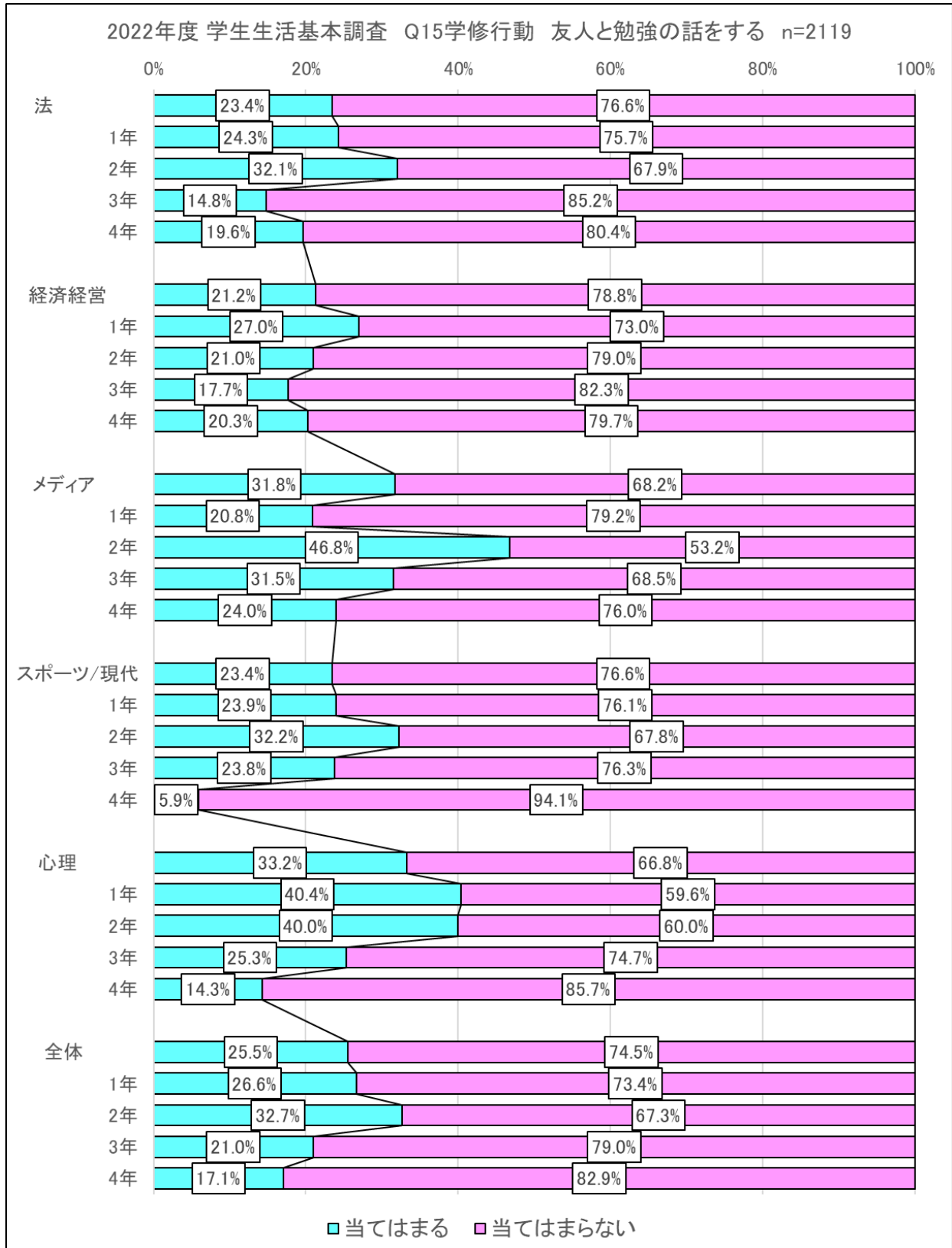


学生生活基本調査 学修行動 授業の予習・復習をする 学年別・経年

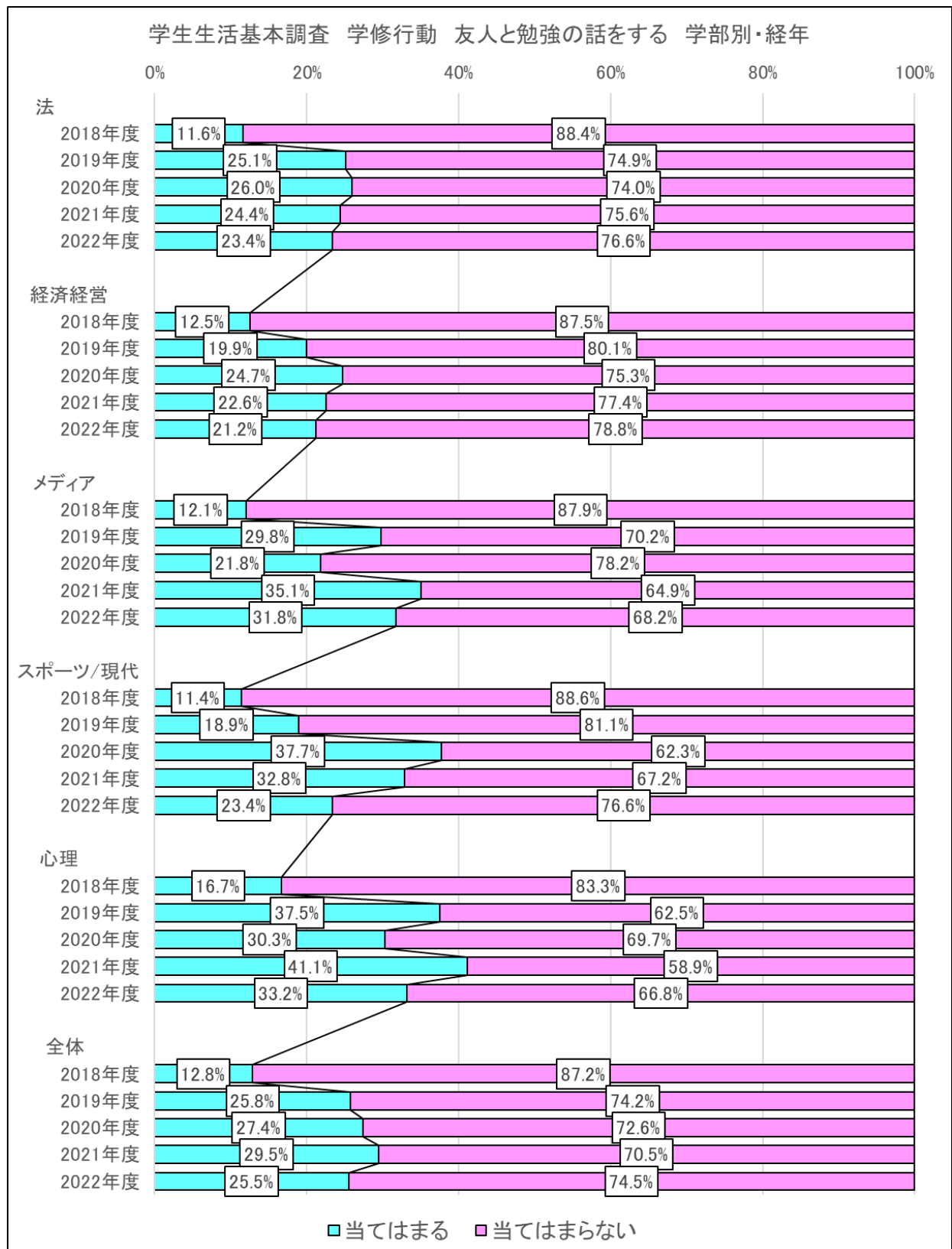


### (8) 友人と勉強の話をする

2021年度調査では、全体では26%が「当てはまる」、74%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部・メディア情報学部で「当てはまる」を選択した層の割合がやや高く、他の3学部は20%台前半でした。学年別では2.1年次で「当てはまる」の割合が高く、3.4年次生は、「当てはまる」を選択した層の割合が低く、現代文化学部4年次生が6%と特に低くなっています。経年では、Web調査に変更した2019年度以降、「当てはまる」を選択した層の割合が20%台後半で推移しています。

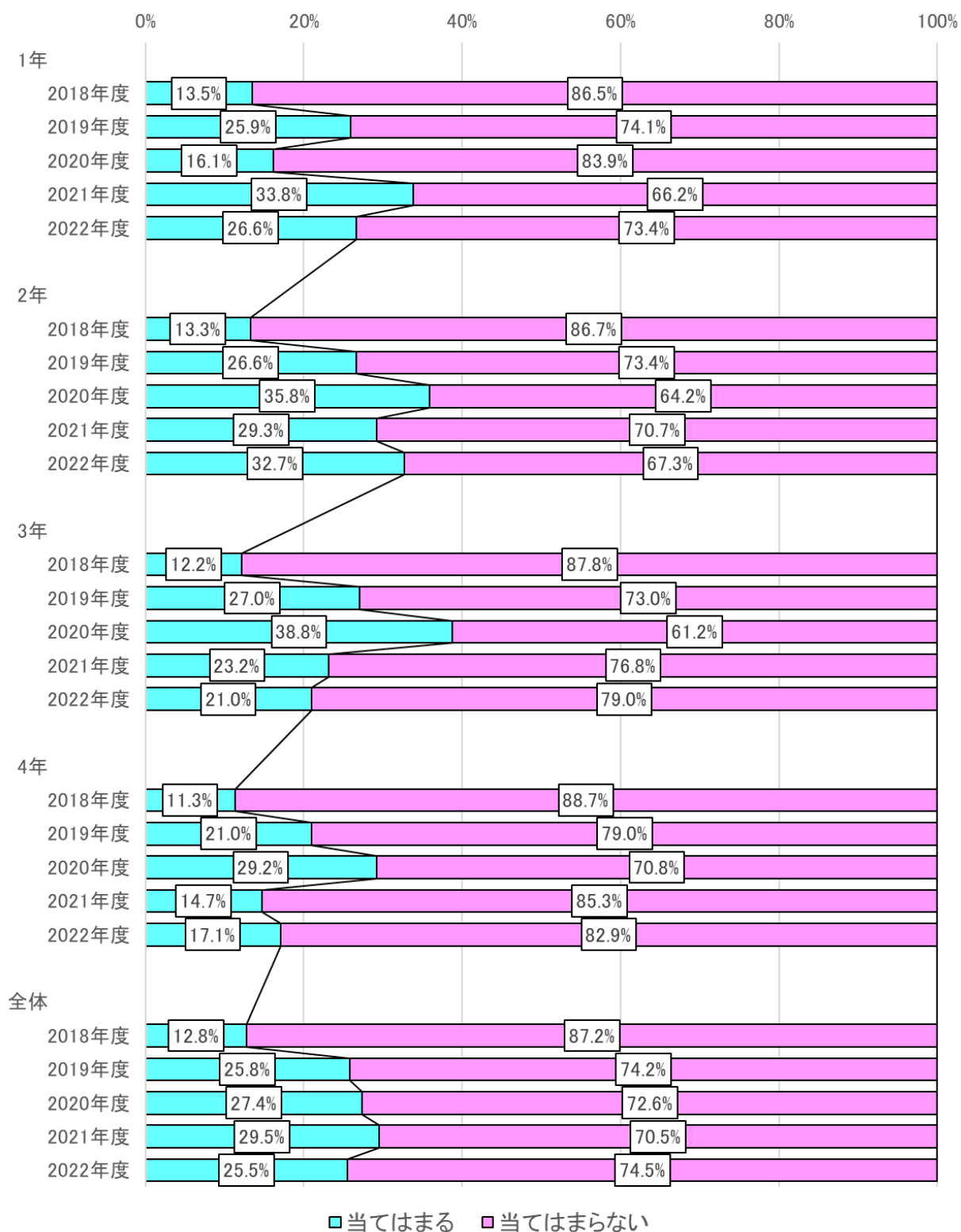


参考) 2018年度から2022年度調査経年比較





学生生活基本調査 学修行動 友人と勉強の話をする 学年別・経年



## 5. まとめと改善案

授業外の学修時間について、コロナ禍の2020.2021年度調査では、1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）を回答する者の割合が60%程度から20%台と大幅に低くなり、3～10時間（「3～5時間」「6～10時間」）の割合が20%程度から50%程度へと大幅に高くなりましたが。今回の2022年度調査では、それぞれ43%・32%であり、コロナ禍以前に戻りつつあります。コロナ禍に伴うオンライン授業での課題やリアクションペーパーの増加傾向が、対面授業割合の増加に伴い、コロナ禍以前に戻りつつあることが授業外学修時間の増減に大きく影響していると考えられます。

学部別では、1時間未満を選択した層の割合はスポーツ科学部/現代文化学部で56%と高く、メディア情報学部は31%と低くなっています。一方、3時間以上を選択した層の割合は、メディア情報学部42%、心理学部38%でした。

学年別では、1時間未満の割合は、1年次が46%、4年次が45%と2.3年次に比べて高く、昨年度以前と同様に、履修科目数が最も多い1年次の授業外の学修時間が少ないという結果になりました。学年や授業実施形態に応じて、適切な授業外学習を促すような予習復習、課題の設定等を工夫する余地があるとともに、特に1年生に対してはシラバスやMoodleを通じて授業外の学修方法についてわかりやすく説明する必要があるものと思われまます。

週当たりアルバイト時間との関連では、2019年度以前は、学修時間1時間未満の割合は、アルバイト時間が増えるにつれて高くなる傾向が続いていましたが、2022年度調査では、アルバイト「8時間未満」を選択した層で49%とやや割合が高い以外は、40%台前半でアルバイト時間による差異はあまりない結果となりました。また、学修時間3時間以上の割合は、アルバイト「24時間以上」が39%で最も高くなっています。

2021年度調査と同様、アルバイト時間が短い（またはしない）学生について、学修時間における1時間未満の割合がやや高く、3時間以上の割合がやや低い結果となりました。文部科学省による「全国学生調査」における1週間の生活時間の項目では、本学学生は全国に比べ「趣味／娯楽／交友」「スマートフォンの使用」にかかる時間が長いという結果がでており、勉学やアルバイト以外を指向する学生が一定程度いることが示唆されます。

週当たり課外活動頻度との関連では、学修時間1時間未満の割合は、課外活動頻度「週1-2回」の34%から「ほぼ毎日」で58%と課外活動頻度が増えるにつれて高くなる傾向にあります。学修時間3時間以上の割合は、課外活動頻度「ほぼ毎日」を除き35%程度であり、課外活動頻度による差は見られませんでした。

学修行動では、前年度に比べ、「ノートの取り方を工夫する」で10%、「できる限り授業に出席する」で2%「当てはまる」を選択した層の割合が高くなりました。

また、前年度に比べ割合は低くなったものの、「インターネットで調べる」「宿題・課題は必ず提出する」「授業の予習・復習をする」について、コロナ以前の3年に比べ、「当てはまる」を回答した者の割合が高い傾向は続いており。学生の主体的学びが促進されている点において肯定的な効果が得られていることを示唆しています。

「友人と勉強の話をする」について、2020年度は1年次で「当てはまる」を選択した層の割合が16%と他学年に比べて低くなっていたところ、前年度に続き、3.4年次生より高い割合となりました。2020年度はオンライン授業でしたが、ゼミ等の少人数授業について対面授業を実施できたことで「友人と共に学ぶ」環境づくりが出来た結果と考えられます。

以上